

## 令和5年度第3回白井市合計画審議会

### 議事概要

日 時：令和5年8月4日（金）午後1時から午後4時50分まで

場 所：白井市役所東庁舎1階会議室101

出席者：【委員】

・第1部

関谷昇会長、野水俊夫副会長、酒井啓史委員、飛田毅委員、中野七生委員  
宇賀博委員、鎌田元弘委員

・第2部

関谷昇会長、野水俊夫副会長、手塚崇子委員、福田純子委員、松本千代子委員  
近藤恭子委員、宇賀弘通委員

【事務局】

村越企画政策課長、松田副主幹、高橋主任主事

・第1部

岡田市民環境経済部長、金井産業振興課長、小島都市計画課長

・第2部

岡田市民環境経済部長、宗政教育部長、榛沢教育部参事、金井産業振興課長  
竹田環境課長、小島都市計画課長、山本生涯学習課長

傍聴者：0名

1 開会

2 議題

■第1部■

(1) 外部評価の実施（評価のとりまとめ）

○戦略1－2 働く場を生み出すまちづくり

【会長】

皆さん、こんにちは。これから審議会のほうを始めさせていただきたいと思います。

前回の第2回の審議会では、この委員会を2グループに分けて、Aグループについては7月の19日、Bグループについては7月の21日に、それぞれ2つずつ、施策に関する勉強会、その後、グループワークということで意見交換をさせていただきました。その後、各委員におかれましては、それぞれの評価をしていただいて、その結果を事務局にお寄せいただいているところです。

今日お手元にある資料は、それらをまとめたものとなっておりますので、今日はそれを基に評価のほうを詰めていければというふうに思っております。

今日は、まず1時から、この会議でAグループとして戦略1-2、戦略3-3の2施策について評価を行う、午後3時から、Bグループとして戦略2-1、戦略2-2を評価するという進めていきたいと思えます。

各委員それぞれの評価を踏まえて、審議会全体としての評価と今後の改善に向けて、今日は皆さんから御意見を頂戴していくということになりますので、御協力のほうよろしくお願ひいたします。

それでは、議題のほうに入らせていただきたいと思えます。

議題の一つ目、評価の実施ということで、まず事務局のほうから説明をお願ひいたします。

#### 【事務局】

資料に沿って説明

#### 【会長】

今、事務局のほうから説明がありましたけれども、先日の勉強会と、それからフィールドワーク、意見交換等を踏まえてこのシートを取りまとめていただいておりますので、今日、議論としては、それぞれの項目について統一した評価をすることはしないで、これはあくまでも各委員がそれぞれ評価していただいたということで、最終的な報告書にも、このような形で掲載するというを予定しています。

今日議論いただくことは、これら全体の総合評価です。各委員の皆さんにもそれぞれ総合評価つけていただいておりますけれども、この総合評価について、審議会全体で一定の評価をするというふうにしたいと思えますので、まずその総合評価を確定させるということと、それから、今後に向けた改善点、それらについて、既に御記入もいただいておりますけれども、少し皆さんで意見交換しながら、取りまとめを図りたいというふうに思っております。

まず、進め方ですけれども、各委員、報告していただいておりますので、その評価について、自分はこういう評価をしたということについて、幾つかのポイント、理由をお一人ずつお話しただければというふうに思えます。それを一巡した上で、全体として少し協議のほうをさせていただければというふうに思っております。

基本的に、前回までは出席いただいている課長さん、職員の方とのやり取りということでしたけれども、今日は委員の中で基本的に協議をするというふうな形で、どうしてもここ確認したいということがあれば、その点で確認はしたいと思えますけれども、基本、我々で評価について協議をするという形にしたいと思えますので、よろしくお願ひをいたします。

お一人ずつ、では、まず自分はこういう評価をしたということでお話しただければと思えます。

時間としては、大体一つの施策で50分程度予定をしていますので、各委員の皆さんの御発言と、それから協議、合わせて50分程度を見込んでおります。

では、よろしくお願いします。

#### 【委員】

1－2の働く場を生み出すまちづくりというということではあります。気づいたところとして、視点というところを記入していないところが多いのかなというふうに思っております。

最初の取組状況のところ、目標実現に資する取組となっているか、これは評価Cということで書いております。自分自身としても、働く場を生み出すというのは関心のあることだなという意味では、どうしても町自体が住宅土地ということでした場合に、こういう視点がよかったということではあるかと思えます。そういう中で、目標自体も過去においてそう高くはなかったのかなというふうに思っております。ただ、産業振興条例づくりなんかもする中で、こういう働く場をやはり大事にしていかななくてはいけないということでは、ここ10年、大きく変わってきたのではないかと思っております。

市民ニーズに即した取組となっているかということなのですが、これはBということで評価をしました。地域に雇用を確保していく、重要な施策としての位置づけがまだ弱いとはいうものの、これこそ位置づけてきているということをお願いしながら、この評価をさせてもらいました。

ただ、各分野間で必要な連携が図られているかということについては、Cということで。特に、市内だけではなく隣接市、県との連携の中で、補完的な関係性を構築して進める必要があるということで書かせてもらいましたが、私も関わっていた中では、なかなか市と協議したりする中では、それは県が決めることだからなかなか難しいということが。県と話してみますと、市の強い要望がないとなかなかできないなんていう返事をもらったり、工業団地の中でも苦勞してコンビニを誘致したりしたとき、もうちょっと早く市長も、協議はしてきたのですけれども、用途指定みたいなものへのアドバイス、あるいは、またそういうものの取組ができれば、今は、そういう意味では変わったのですけれども、そんなふうにした次第です。

次は、Bということで記載しました。産業振興ネットワーク会議の活動の広がりを生かしていけないだろうかというふうに思っております。

次の成果については、二つともCということで、目標については、具体的に雇用に結びつく取組となっていなかったが、最近は見直しが進んできていると。例えば、就職に関することも隔年でやってきていて、今年はこれではいけないなというので、我々も市でやっているものだから、こういうものなのかなと思っていたのですけれども、もう少し積極的に意見を出していけばよかったのかもしれないと思いますが、何となく表示がある、表示というの

はそういう仕組みがあるので、そういう中でやっていけばいいなという思いであった点、反省も含めてCということをつけております。

改善点のところ、今後の方向性のところに、人口減少社会の中で、白井市だけでなく、いつも思うのですが、鎌ヶ谷、印西と連携強化をもっと模索していかないと、それぞれの強み、弱みがある中で、その真ん中にある白井市としては、うまくその辺を活用していけないかなというふうに思っております。

分かりやすさという意味では、まだまだ市民へのそういう雇用を拡大していこうよというものについては不十分ではないかということでCとしました。

総合評価としては、地域に安定した雇用と納税を確保していく上の重要課題との位置づけを明確にして進みつつあるという意味で、B評価ということでさせてもらいました。以上です。

#### 【会長】

続いて、よろしくお願いします。

#### 【委員】

皆さん、こんにちは。私はあんまり書類を読んでいなかったの、適当に、適当ということではなく、ちょうど目をやられまして、文字がほとんど半分見えない状態なので、最近やっと眼鏡ができてきて、これを読みました。

目標実現に資する取組となっているかというのでは、僕自体、考えていたことを言うより、各委員が質問として改善点と質問に対する回答を見る限りでは、行政としては結構やってくれているのだなという認識に大分なってきたしております。

それから、市民ニーズに即した取組となっているかというのは、各就業希望者に対応できているのかなと。高齢者は結構いろいろ動いているみたいなのですがけれども、高齢者以外の方の動きに対応ができているのかなというのも、ちょっと疑問があります。

それから、各分野間で必要な連携が図られているか。これもそういう情報が、私のほうでもそうなのですが、なかなか市民のほうには伝わっていないのではないかな。その辺を市のほうでも構築してほしいなと思っています。

それから、市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。これも、若者が定着できるようなものが構築されているかな、どうかなという疑問が浮かぶもので、その辺も考えてやったらどうだろう。何年か前はそういう動きもあったような感じがするのですがけれども、最近はその見受けられないので、その辺もしてほしいと思います。

それから、目標実現に向けて成果は上がっているかという、僕もたびたび野菜工場の件を話したりしているのだけれども、お金がかかることと、地権者の思いがあるのだとは思いますが、とにかく新しいことを何かつくっていかなければいけないのではないかなというように感じて思っていますので、その辺をもっと考えていきたいと思っています。

1次評価の進捗状況ですけれども、各議員さんの質問に対して、改善点に対して、行政のほうはそれなりの回答を得てもらっていると思います。回答というか、みんなが回答してくれているなという感じはあります。

それから、問題・課題で、昔は後継者問題というので相当騒がれたと思うのですが、最近はどうなのか、そのあれが伝わってこないの、その辺も分かるような情報を流してほしいと思います。

それから、今後の方向性・進め方、先ほど言いましたけれども、野菜工場とか観光農園、これつくることによって、高齢者等の就業の機会ができるのではないかと考えていますので、できるだけ地権者とお話しをして、つなげていってほしいなと思います。

それから、市民に分かりやすい記載となっているか。これが、情報があんまり伝わっていないのではないかと考えていますので、この辺を、セミナーなり講演会を開いて市民に伝わるような方向に持っていってほしいなと思っています。

施策の総合評価というと、アクションだけで終わらせないで、継続的にサイクルを進めていってほしいなと思っております。以上でございます。

#### 【会長】

ありがとうございます。続いて、よろしくお願いします。

#### 【委員】

今回、総合評価Bでした。一番後ろにBとCの総合評価の、評価点を書かせてもらったのですが、B評価は、取組の成果に向かうものであるが、さらなる改善策を図ろうと。C評価は、施策の実現に向け、ほかに多くの課題が考えられるというような評価の仕方になっているので、各項目のこともそうですが、今回Bとさせていただきます。

各項目の評価では、まちづくり協議会は、協議会が出来て進んできているということで、そこは評価したいと思っています。ただ、ほかの項目でも、事業を行っていることの成果を市民に分かりやすく、もう少し情報発信とか、昨年同様、工夫していただくとうまいかなというような感じは受けました。

各分野間での情報発信は、もう一歩進めていただければと思います。

次に、目標の設定がない事業等があるので、どのように個別の評価をしていったら良いのかがちょっと分かりづらくなっている。昨年と少し違うところもあって、指標がないところをどう判断したら良いのかという事は困ったところではありました。中には、実績が低下しているところもあるので、再検証というか、再度確認をしていただきたいと思います。

また、今後の進め方では、若い世代が白井に魅力を持って貰えるような街にならなければいけないため、雇用創出と産業が発展していくところに結びついていくよう事業とか施策をもう少し練っていただきたいと思います。

最後の分かりやすさというところで、評価の仕方ですが、専門用語というよりも、いか

に市民に伝わるかという事が一番大きな視点ではないかと思しますので、伝え方を1-2のところでは、もう少し進めていただきたいと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。続いて、お願いいたします。

【委員】

取組状況のほうに関しましては、白井がコンパクトシティとか、印西とかに比べて市の面積もそんなに広くない中、ニュータウンの事業用地もほぼほぼ開発が終わっていて、そこまで市が保有している空きはないような中で、さらにそこをどンドン市が予算で買い取って行って、そこを開発するというふうな、いわゆるそんなに予算があるわけではないとか、様々な内部的な制約要因がある中で、地区まちづくり協議会の設立を推進して、地権者の方と開発事業者の方、企業誘致とマッチングしていくという、予算がない中で、制約がある中で政策を推進するという意味では、ここは白井市なりのお考えがあるのかなということで、そこは一定程度評価をしたいなというふうに思っているのが、まず1点です。

ただ、それ以外の異業種、異分野間の交流や、ネットワークづくりや、創業支援のほうは、この間の審議会でも皆さんからも声がありましたように、なかなか伝わりづらい、見えづらい、市民のほうとしては分かりづらいというふうな部分がありましたので、やっぱりこの部分は課題なのかなという気はしますし。あと、地区まちづくり協議会はどのくらい、どんなふうに進んできているのかという部分が、これもクローズドなテーブルだとは思うのですけれども、なかなかどこが、どんなふうの開発がされていくのかな、今後というふうなことが、市民にもうちょっと、できる範囲でいいのでイメージが伝わっていくと、市民のほうにもそういう開発や発展を望む機運みたいなものが醸成されていくと思うので、そういうものをうまく吸い上げて、行政としてはそれを追い風にうまくしてもらえると、市民と行政と、あと開発がもっといい好循環で回っていくのではないのかなというふうに思っています。

この企業誘致やまちづくり協議会のほうに関しては進捗されているのかなという感じで、高めの評価を考えてはいたのですけれども、皆さんの評価を拝聴したり、拝見しますと、その他のところ、取組の2や取組の3のほうで、そこはまだ具体的なところは見えづらいという部分がありますので、そう考えると、トータルに委員自体が感じたのかなというふうなことを私も皆さんのお話を聞いていて感じました。

改善に関しては、この間のワークショップでもいろいろお話が出て、テーマや課題が浮き彫りになったところだと思うのですけれども、駅周辺のニュータウンや分譲住宅に居住する若い世帯と、工業団地のほうの就労層とがあんまりマッチングしていないという部分ではあたりします。

あと一方、梨の町として、農業振興という形で産業振興、働く場を考えていくようにすると、その農業地が、いわゆる離農とかでなくなっていく、その部分のバランスをどのように取っていくのかというふうな大きな課題、大きなテーマという、補完したい課題を認識できているのかなという、本当にこの間の審議会でそういうような顕在化したような部分がありましたので、その部分は、Aはないのかなというふうな気はしました。

総合的な分かりやすさは、皆さんの本当にこのシートを拝見していても、ここに一番皆さんも課題というか、テーマを感じていらっしゃると思いますし、私もここ同感でして、行政のレポートとしては、これでとてもよくできているとは思うのですが、一般の市民目線で捉えたときに、市民にイメージが伝わるか、市民の期待値が高まっていくようなビジョンを示しているかという、行政用語が続いていくような部分があるので、そこをより分かりやすいビジョンとイメージが伝わるような発信の仕方を考えていただければよろしいのかなというふうに感じました。以上です。

**【会長】**

ありがとうございます。続いて、お願いします。

**【委員】**

よろしくお願いします。

私の評価は、おおむねよいというか、市民にとっても、よい施策なのかなと思うのです。各項目ごとに高い評価をさせていただきました。

取組状況のほうも実現可能な目標ですし、市民のニーズというか、そういうものにも取り組んでいるのかなと思っています。ただ、市民との情報がまだ共有されていないのかというところでBにしたのですけれども、成果のほうも実現に向かって上がっているのかなと思いますし、ただ、取組の原因、その辺がまだ的確に捉えられていないのかなというところでBにしています。

あと、改善のほうも、進め方とか方向性はおおむね的確なのかなと思っていますけれども、成果のところと同じで、問題、課題が的確にまだ捉えられていないというところもあってBにしています。

分かりやすさのほうも、記載というよりは各施策、市民にとっていろいろな施策をしていただいているのですけれども、各施策のPRというか、それがまだ市民に届いていないのかなというところで、Bにしています。

総合評価のほうは、Aに近いBということにさせていただいているのですけれども、いわゆる相談支援策等、実施している事業が本当に有意義なものなのですけれども、なかなか各市民に伝わっていないのかなというところで、そういうPRをもうちょっと、といっても、どういうものをすればいいのか、私的にも具体的なものは提案できないのですけれども、より多くの市民に周知できるようにできればいいのかなというところで、総合評価

はBにしています。以上です。

**【会長】**

ありがとうございます。続いてお願いします。

**【委員】**

よろしくお願ひいたします。

私は、A、B、Cでいいますと、Cは3番目の各分野間の連携、ここのCは、基本業務そのものというより、判定材料が現段階では乏しいからという意味合いでCをつけております。

そのほかのA、Bのところは、以前お示しいただいた各項目の評価基準に沿って、私の観点は主に住民という立場ではございません。学術というか、他市の状況、近隣も含めてどちらの状況も若干知っているというところからきて、相対的に理論をつくっております。

逆に、AとBは、私の感覚的などころもありまして、そんな厳密ではございません。逆に言うと、A、Bいろいろ、企業誘致などもいい状況かなとは思いますが、AやBがついているのだけでも、今後のことを考えると、今後の改善点書いてございますが、もうちょっとメリハリを利かせていく部分というのが明確にならないと。ワークショップの中でも申し上げましたが、いろいろと、例えば成田空港の機能拡張については、時間が決まっています、それに合わせて企業誘致のタイミングって、やれるときが限られていたと思うのです。その辺を考えると、Aとか、今の企業選定に関しては、AやBでいっているのだけでも、AやBが今の点をクリアしていけば、ずっとそれを繰り返していけば、企業の企業誘致が済むのかとなると、僕は厳しいものがあるのではないかな。逆に言うと、より高い目標設定をしていただく必要があるのかななんていうふうに思いました。今の評価で意見を言うとAやBなのだけでも、より、今、総合的に言うと、政策的に、会長の御専門でしょうが、管理をしていくというところから、もう少し企業誘致などは、1-2の項目と3-3の項目とを一体的に進めて、政策の管理をしていくというところから、実際にプロジェクトを管理していく、ちょっと民間に近いような発想を取り入れていく必要があるのかななんていうふうに考えました。だから、評価基準に沿って、なっていくと、さらに高みを目指して、より具体的に期間を設定してほしいなというところが僕の希望です。

Cがついている部分は、今の時点では判断が十分できませんよという意味のCということです。以上です。

**【会長】**

ありがとうございます。

私のほうからは、取組状況については、このシートのほうにも描かれていることというのが、少し抽象度が高いというところもあって。企業誘致にしても、それから就労を考え



るということにしても、どこにターゲット層を置いているのかということが、非常に曖昧模糊としているという印象を受けるので、どう戦略的にこの辺が進められているのかということについて、もう少し詰めていったほうがいいのではないかというふうには個人的には思っています。そういう意味では、少し厳しめに個人的には評価をしています。

取組目標状況については、そういう意味では、企業ニーズ、就労ニーズというものをもっと精緻に捉えていくとともに、どういう層に対して、どういう働きかけをどういうタイミングでしていくのかというあたりの戦略性がもっと出てくるような、そういう在り方というものが、今後の展開の部分で問われているのではないかということと。

それから成果については、非常に評価はもちろんできる場所ですけれども、今後の改善等々を考えていくときに、若い世代のニーズというものは一体どういうものなのかというあたりが、必ずしもクリアに想定されていないのではないかというふうなことが、取組状況等々踏まえた中で、少し気になる点としてあります。というのは、白井で働くということを考えてときに、どういうニーズがあるのか、それから、どういう層に対して、どういう働きかけをしていくのか。今どんどん若者たちの置かれている状況というのは変わってきていますし、働き方というものも大きく変わってきている。そういう非常に変化が著しい状況の中で、どういう人たちを取り込んでいこうとしているのか。これは、やはり企業サイドもそうだし、行政も含めてしっかりターゲットィングというものをしていかないと、なかなか厳しいところがあるのかなというふうなこともちょっと気になっているところです。そういう意味での改善点としては、ちょっと厳しい評価をしていますけれども、戦略的視点が必要なのではないかというふうに言えます。

トータルではC評価というふうに書かせていただいていますけれども、先ほど先生もおっしゃっていたように、個々の取組、目標設定、それから個々の施策事業については、この枠組みではいいのかもしれないけれども、そもそも体系的な位置づけ方というものをもう少し変えていかないと、政策連動というものは出てこないのではないかというふうにも思われますので、そういう点を踏まえてC評価というふうにさせていただいております。

ということで、一通り各委員のほうから評価を頂きました。

まず、施策の総合評価ということで、全体としてAからBのどの評価にするのかということ固めるわけですけれども、一応今の段階で各委員の評価を見ますと、B評価とC評価に分かれていて、数の上からですとB評価をされている方が少し多いというふうなところもありますので、評価としてはなかなか難しいところもありますけれども、C評価というのは、かなり今後に向けて根本的な改善が必要だというふうな意味合いもありますので、そこまではという方がどちらかというところもあって、一応B評価という形でいいかなというふうに思いますけれども。

この総合評価をめぐって、もし御意見があるようでしたらお願いしたいと思いますが、

いかがでしょうか。やっぱりC評価にしたほうがいいのではないかという御意見があれば、もちろんそういった御意見も頂ければと思いますけれども。

特にございませんようでしたら、総合評価としてはB評価という形にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、時間の関係もありますけれども、今の各委員からの改善点も含めてお話をいただいておりますけれども、今日配られているペーパーで、今後に向けた改善提案等というペーパーが、A4のものが1枚あるかと思います。これらを踏まえて改善点ということで、この審議会としての御意見を取りまとめたと思いますけれども。改善点ということで御意見ある方はお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

一応、今、皆様から頂いた御意見、全部を集約するといったらなかなか難しいところもありますけれども、一つは、まちづくり協議会等々で様々な動きをつくり出してはいるけれども、やっぱり市民の感覚からすると、情報が見えてきていないというところがあって、どこにどういう動きをつくり出していくのか。そこにはどんな企業を誘致しようとしているのか、どんな雇用を生み出していこうとしているのか、どんな拠点が形成されようとしているのか、そういう情報が市民の側からすると見えてきていない。もちろん交渉事という側面もありますから、なかなか全てをオープンにすることは難しいにしても、でも、どういう町にしていくのかというふうな部分については、やっぱり市民とともにあるという姿勢が非常に大事なのではないかというのは、多くの委員の皆さんが御指摘いただいているところかと思います。

また、そういう就労ニーズ、企業ニーズ等々も含めて、戦略的なことを考えていくということもそうですし、それから、先ほど先生もおっしゃっていたように、このフレームだけに限らず、もう少しより高い目標、より高い戦略性というものを考えていくと、1-2だけで捉えられるようなものではないと。3-3の話も含めて、もうちょっとトータルで位置づけを考えていかないと、要するに政策連動というのが出てこない。つまり、働くという働き方、それから、どこで働くのかというふうな企業誘致から企業の継承等々含めて、その在り方。それから、トータルにそういったものを活性化させていく環境づくり、支援の在り方、この辺が総合的に結びついてないと、個々の成果ということにもなかなかつながってこないというところもあって、それぞれがそれぞれの取組をやって終わってしまうというふうなことにもなりかねない。

そういう意味では、もっと積極的な結びつき、それは分野を超えた結びつきであったり、今言ったような、異なる政策課題をもっと積極的に結びつけていく。そういうふうなところから、個々の政策事業というものを位置づけていくようにしないと、大きな動きというものになっていかないのではないかというふうな話もあったかと思います。

それから農業振興、工業団地等々も含めて、どういう人たちが、どういうニーズを持って、どういうふうな仕事をしたいのかといったあたりも、それぞれ戦略性の下に考えていくということが捉えていくのではないかと、御意見も比較的多かったように思います。

今申し上げたことのほかに、ぜひこの点はというふうな方があれば、御指摘いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。今後の改善点という点で。

#### 【委員】

私ちょっとスピード感をみたいなことを申し上げたのですが、もう一つは、地域に頼らずというか、企業誘致も含めて、いろいろ私、幾つか現場を見ていますが、個人情報絡みだったり、企業秘密だったり、交渉途中だったり、他市との駆け引きがあったり、いろいろ公表できる部分って決して多くない。逆に言うと、公表することによって、事業の進捗にマイナスになるという。意図的に隠すという状況ではなくて、出すに出せないものがあるというところ、ぜひ、そこら辺は市民にどうやって伝えたらいいのかわかりませんから、そういう現実もあるので、そこは苦しいのですけれども。

さっき言ったように、ともかく一番これからどういう働き口をどうやってつくっていくかということについても、企業誘致って一つのポイントだと思いますので、限りある時間の中で、精一杯、メリハリをつくっていくのも大事なかなというふうに思いますので、これは庁内でよくよく話し合っただけであればいいかなというふうに思います。ちょっと補足させていただきました。以上です。

#### 【会長】

ありがとうございます。非常に何でもかんでもできるという状況ではもちろんないわけですから、それぞれのもちろん場所という問題、それから、お金という問題、様々なニーズの違い等々も含めると、それらを結びつけられる範囲というのは非常に限られてきてしまうというものも実態ですけれども。だからこそ、ある種のメリハリをつけながら結びつきを図っていくといったようなことも問われてくるのかなというふうにも思います。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【委員】

自分らも、ここがニュータウンができるよということで、通勤に適していたということで、1万2,000人の人口だったところが6万2,000、3,000というところになってきたわけですが、これ一定の期間のところ、ニュータウンということで発展してくると、どんどん税金を払わなくなる世代、自分も含めて、があっという間に、造ってきた施設を、文化的な施設を維持するためにも、企業誘致並びに我々中小事業者としては、外から呼んでくるだけではなく、今ある事業者がここで発展していくという、そういう二つの側面で事業者がここで利益を上げる人を雇用していくような好循環をしっかりと、他の市町村に負けずにやっていけるかというところが、これから10年、20年の中で非常に重要だろうなど

いうふうに思っております。

そういう中では、やはり行政のほうが、ここ5年ぐらいのところでも大きく、このままではいけないなという危機感を持っておられるし、我々もそう思っている。そういう中では、一般の市民の人たちにも見えるような形でもって、また、土地を持っておられる農業系の方も含めて、我々のまちづくりをどういうふうにしていくのだというのを確認していく重要なときではないかなというふうに思っております。

工業団地自体の、実際、工業だけなのかというと、こここのところで建屋が建っているところは、どちらかというと、製造業ではなくて物流的なものになって。その物流も、単に物を運ぶ中継所ではなくて、そこで手を加えるとか、そういうような形のものもあり、そういう意味では、結構複合的な産業として捉えていく必要もあるのだろうなというふうに思っています。

そういった用途指定なんかも、なかなか市の方とお話ししていても、白井の場合、そういう開発するのもアレンジがないのだよと。確かに隣の印西に比べると、35平方キロに対して130平方キロあったのですね、それくらいありますので。何しろ、鎌ヶ谷と白井と合わせたって、50ちょっとくらいしかないわけです。印西は、みんなひっくるめてだったから、その倍以上あるわけで。そういう中からすると、ここにも書いたのですが、連携しながら、ちょうど真ん中にある白井がやはり中心的に、なかなか中心的には言いにくいですが、なるような連携を、うまく企業間との競争の中で進めていける絵が描ければいいのではないかなんていうふうに思ったり。今回これを書くに当たって、そんな思いを一層深めたということは、ここで述べさせていただきます。ありがとうございます。

#### 【会長】

その連携を、またどういうふうにつくり出していくのかということの課題もありますし、もっと言ってしまえば、今、企業も単独でやるということだけではなくて、いろいろな企業間コラボというものを積極的につくり出していくと。つまり、自社の持っている資金力、人材力、技術力だけでは到底勝てないというふうな状況の中で、もっといろいろな異色のコラボをつくり出していくというような、ビジネス業界ではもう当たり前の流れにここはなってきていると。だからこそ、そういうある種のマッチングということも出てくるでしょうし、その場というのをまたどう考えていくのかというふうなことも出てくると。

確かに、物理的な場所を確保するというのも一方では問われていますけれども、今がもう、それこそ本当にパソコンがあれば、いろいろな仕事をつくり出してしまうというふうな側面もあるわけで、そういう意味では、広い意味での起業ですね。要するに、仕事をどういうふうにつくり出していくのかという部分に、もっと力を入れていくということも併せて問われているのか。

これは少し中長期的な流れの中での話ですけども、そういうふうなことも含めて、よ

りメリハリの利かした方向性が問われているのかなということで、この総合評価については、少し取りまとめをさせていただきたいと思います。

どうしてもという御意見は、ほかにございますでしょうか。時間も限られていますので、今日いろいろ御意見いただいたことについて、この後また取りまとめをさせていただいて、次回の審議会で最終確認をしていただくということにしたいと思いますけれども、取りあえず、戦略1-2については、以上とさせていただきたいと思います。

### ○戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり

#### 【会長】

続けて、今度は戦略3-3の取りまとめに入りたいと思います。お手元の資料に戦略3-3、拠点を結ぶまちづくりというので、同じように評価を取りまとめたペーパーがあるかと思います。それを踏まえて、今の1-2の施策と同じように、総合評価についての取りまとめと、最後、今後に向けた改善点を確認したいと思います。同じように、順繰りにまた回していければと思いますので。よろしくお願いいたします。

#### 【委員】

拠点を結ぶまちづくりということなのですが、やはり北総鉄道の件が市民に則した取組になっているかという意味では、重要なものだと思っております。そういう意味では、北総鉄道もやっここで大きな借入れに対しては、めどが立って、そして運賃値下げ、特に学割なんかを下げた。そして、また一部の一般の運賃も下げている。これは、以前、市町村並びに我々も含めて、これからも何でお前のところは下げないのだよという姿勢から、一緒に繁栄できる鉄道沿線づくりという意味では、市もそういう方向性を打ち出しておられると思いますが、それを一層進めていくということは、重要ではないかなというふうに思っております。

それから、道路なのですかね、この会でも、中のあそこもここもというような、我々工業団地のところだけではなく、七次台の通学路のところも、この間歩いてみたけれども、まだ相変わらず、ここで行けないのだなという。これも地権者さんの関係でしょうけれども。あるいは、また富士のほうから駅に行く道なんかも、予定にはなっているのだろうけれども、10年も20年も、これからもかかるのだろうけれども、働きかけ等、どういこうでうまくいかないのかも、常に市民に、年に1回程度、状況の説明を広報紙に載せてもらえればなというふうに思いました。

それから、成果としては、ここに同じようなことを書きました。

それから、改善なのですけども、これと道路計画一つとってもお金が要ることなので、道路だけを造るのではなくて、道路を造ることによって、上がってくる固定資産税や何かを当てにしながら、企業誘致も含めて、ある程度総合的な働きで取り組んでいくことが必

要だろうなというふうに思います。これインフラは、やっぱり行政がリーダーシップを取って、やっていかないといけないもので、それを組織化しながら、我々民間も協力しながらやっていくということで、分かりやすさも示しながら進めていくことは重要ではないかなというふうに思いました。

そういう意味では、総合評価も、これもBということで書かせていただきました。以上です。

#### 【会長】

続いて、よろしくお願いします。

#### 【委員】

目標実現に資する取組となっているかで、アクセス道路の取組方は進んでいるように。ただ、インターチェンジ周辺の取組は、なかなかできていないという感じがします。物流が動き出したので、道路混雑対応としては、早期実現をしてほしいなと思っております。

先日、規格のあれを読みますと、今、工業団地入っていくのは、富塚から入っていった道路を主に使っておると思うのですけれども、その近くに予定道路が規格されておりますけれども、これは地権者の問題等なので、どうなのかな、進められるのかなとは思っております。

それから、市民ニーズに即した取組となっているかというので、既存の計画路線の進捗状況、または小学校区まちづくりは4件、5件と推移しているというのが、拠点となるまちづくり協議会の推移が全然見えてきていないので、この辺をはっきりさせてほしいなと思います。

それから、各分野間で必要な連携が図られているか。これも連絡がなかなか伝わっていないと思います。

同じく、市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているかという点に関しても、施策が市民には伝わっていないような気がします。

それから、目標実現に向けての成果は上がっているかということで、いろいろな情報が進んでいるようには思っておりますけれども、各種団体や関係者には、その情報が的確に伝わっていないのではないかなというふうにしております。

1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているかというのは、行政も今後は的確に押さえて、改善に進んでいるようには見受けられます。

それから、改善点のほうも、審議会、それから会合などでそういう話がちょこちょこ聞こえてくるので、確認はできていませんけれども、そのように感じております。

分かりやすさは、やっぱり市民に分かりやすい記載となっていないという感じがしますので、これから、総合評価として書いてありますけれども、改善点を踏まえて次のプランを進めて、継続していくという方向に持って行ってほしいと思います。以上です。

【会長】

続いて、お願いします。

【委員】

先ほど1-2でもお話ししたと重なるようなところがあるのですが、成果に向かっているかどうかは、分かりにくいところが何点かあるかと思います。先ほどと同様、目標値が定めていない事業もあるので、成果の結果に対するところが分かりにくく、もう少し改善していただけたらと思います。まち協は、確かに1-2で皆さんの意見があったように進んでいますけれども、市民ニーズに関して、市民にとってどういうまちづくりをしていくのかがやはり分かりづらいので、もう少し工夫していただけたらと思います。

構想道路ですが、最後に記入したのですが、企業誘致を目的としている道路という位置づけに感じられたので、構想道路ではなくて、計画道路として進めていくような施策はどうでしょうか、企業は本当に白井の中で実際に立地できるのか。これは一つのインフラ整備みたいところもあり、市の中で決定して、どういう方向で進めていくのか検討が必要です。先ほど言われたように、企業と早急な対策により、次のステップに進んでいただきたいです。

次に、企業立地奨励金制度は、土地がないので、この制度は死にかけている訳で、うまく活用されていない。次の対策も検討しているようなことが書かれているのですが、早急に対策が必要ではないかと思います。

また、バスコースについては、インフラ整備の中でもっと進んでいくと思います。有益になるが今後とも考えられますし、反対に白井で鉄道は限られてしまうので、バスコースは、今後とも活かせるよう実情も踏まえ利用促進につなげられるよう事業を進めていただけたらと思います。

最後に、総合評価はCなのですが、実際にBかCかの評価基準となると、Bに上がるかとも思います。重大な課題、改善点があるというわけではないのですが、あえて各取組とか改善点というところでCをつけさせていただいているのが実際です。

【会長】

ありがとうございます。続いてお願いします。

【委員】

私も皆さんの御意見を拝聴しまして、最初おっしゃったのが、すごく私も評価が似ている感じで見させていただいたのですが、取組状況に関しては、まず目標実現に関してという点で言えば、これはワークショップでも話題に出たのですが、やっぱり3-3の戦略って取組が大きく、構想道路を実現して、そこに産業、企業を誘致していくという取組でいくと、住民目線での北総線やバス交通のネットワークの充実というふうな、すごく二極化した、目線も企業誘致目線、産業振興目線か市民生活目線かという時点で二

極化している政策が同居しているので、この取組をまとめて一つの評価でというのは、なかなかどっちの側面から見ればいいのかという部分があったのですけれども。一応、そこに向けて進んでいることは分かるので、Bとつけさせてはいただきました。

ただ、その先の市民ニーズに即しているかという前提は、やはり産業道路ではない、市民ニーズに即した生活道路整備への熱量というか言及は、すごく弱いなと感じています。一方、鉄道とバスに関しての政策は、おおむねこんなものなのかなと感じたので、Bをつけさせていただきました。

各分野での必要な連携に関しては、それもこの間のワークショップで、市の皆さんがおっしゃった、拠点という言葉一つとっても、市役所のある部門では、拠点が基本的に西白井駅、白井駅、この駅という交通結節点を拠点として認識していますという捉え方もありましたし、一方では、構想道路や工業団地のアクセス道路に象徴されるように、工業団地も産業拠点、就労拠点ではあるわけで、南部のニュータウン地域と北部の産業地域とを結ぶという点でいっても、それぞれが拠点なわけですよ。同様に、北総線の白井駅の真ん中にできるインターチェンジもまた拠点だと思うので、そういう意味では、拠点という言葉の定義一つとっても、市役所内の各部署間で捉え方の足並みがそろっているのかという前提でいえば、そうではないような部分もあったと感じたので、ここが課題かなと思ったので、Cをつけさせていただきました。

市民と情報共有、参加・協働なのですからけれども、先ほど、年に1回ぐらいは市民へのアナウンスがあってもいいのではないかという話がありましたが私も同様に、木十線一線以外の市民生活に密着した道路整備について、ぼつぼつと土地を買い取っているのは見受けられるのだけれども、これいつ頃どうなるのかなというふうなのがあって、何でこれ進まないのというのが市民からは本当は見えないので、ここの部分ももっと情報共有を図って行って、市民の側からも、やっぱり市民も早くつないでほしい、便利になってほしいという機運があるわけですから、機運の醸成はうまく追い風に使っていけるといいのではないかな。もちろん最後は地権者だったり、予算だったりがあるとは思いますが、それにしても、だからといって、最初からもう発信を諦めているような部分や、共有を諦めている部分はあるのかなと感じたので、その部分は、もう少し広報紙等をうまく使って。それは、今後ここはこういうふうになっていきますよということが市民に見えるかということ、市民が白井に住み続ける期待値にもつながっていくので、大事なのかなというふうに思いました。

目標実現に向けての成果なのですからけれども、定量的な評価を見る限りでは、数値的には目標を達しているのかな、クリアしているのかなというふうには見えるのですけれども、やっぱり市民の肌感覚的に見ると、どうなのかなというふうな気はするので、そこはBにさせていただきました。



1次評価の進捗状況等々ですけれども、冒頭で申し上げましたように、道路で捉えるか、鉄道、バスで捉えるかというのがあるのですけれども、北総線の値下げPRやバスロケーションシステム導入等の進捗状況のほうは、定性的に分かりやすい部分かなと思ったので、そこはいいかなと思いましたがけれども。ただ、それ以外の部分になると、一気に具体性がなくなるので、分かりづらいなとは思いました。

改善点なのですけれども、こういったネット、とにかく市のほうのレポートに書かれていますように、ネットワーク整備、特に道路や北総線の次なる値下げでもそう、どうしても中長期的な話になってくるので、1年間とか3年、5年間でどのくらい進捗したのかというのを見せる成果や、見えた成果をとというのも難しいとは思っているので、そこを酌み取ると、やっぱりAとつけたくなってしまった部分はあります。ただ、人口構造の変化とかというふうな、今後、高齢者がどんどん増えていって、そうなる交通ニーズに変化してくるといふ部分は、それはそれで、そのとおりにかなと思うのですけれども。

ただ、一方で、やっぱり白井は生き残っていく自治体、勝ち残っていく自治体というふうな感じで、流山であったり、つくばであったり、あとは埼玉の高速鉄道線の沿線、さいたま市美園のほうであったりとか、あと、西のほうに目を向ければ、相鉄とJRが直通して、そっちのほうはやっぱり、同じように東京から30キロ圏ぐらいでのいわゆる自治体間の競争というのがあるものなので、そこに勝ち残って、生き残っていくぐらいの気概を持てば、日本全体の人口構造が先細る中でも、白井の活性化を何とか維持していきたいという点で考えれば、攻めたビジョンも立つと思うので、そういうふうなこともあるのかなと思いました。

今後の方向性や進め方は、各論ではすごく的確だと思うのですけれども、いわばそれは点なので、先ほど会長が前半の施策でもおっしゃったように、政策連動といいますか、やっぱり点ではなく線で、面で捉えていただければなというふうにすごく感じました。

去年の審議会でもあったのですけれども、どの戦略、丸の丸という感じで、どれか一つの戦略について議論しているつもりでも、どうしてもやっぱりほかの戦略で語っているところにも話が飛ぶという部分は、どうしても我々の目線だとあるので、それぞれの政策は、市民目線で言うと、これとこれはつながっているよね、目を向けているところがねという部分はやっぱりあるので、より一層、政策連動なのか、もしくは、あるいはもう一度市民目線、生活者目線、あるいは企業目線、どの目線から見るのかということ、目的と手段を整理し直したりというふうなのも必要なのかなというふうに思いました。

分かりやすさなのですけれども、これも先ほどの戦略と同じで、皆さん評価をすごい空気がそろっていたなと思うのですけれども、やっぱり発信ももっと分かりやすいほうがいいなと思いましたが、あと、市が構想道路をすごく強く押し出しているのに対して、それが全然まだ市民には伝わりきっていないのかな。工業団地にアクセス道路がまだ通って

いない段階で、もう一つ、ここに道路を造るのって何だろうという。市民の側は、ここに道路ができると便利だなとずっと思っていたのですということも市民の側が、市民の生活道路として、あんまりそこまで、ここというふうに多分、市民は思っていると思うのですけれども。逆に、前回のように市の方の説明を聞いて、ここに道路を通すことで、一気に産業誘致と開発を進めたいというふうに伺えれば、市内中心部の、いまいちまだ土地活用の進んでいないエリアに大きく開発が開くというふうな点で、なるほどなと思うので、そういうところをもっと上手に発信できたらいいのになというふうに思いました。

ちょっと長くなってきていたので、最後の総合評価のところなのですけれども、先ほどの総合評価を聞いた後、改めて私はレジュメというか参考資料を見ましたら、いまいち進んでいないなというふうなのがCになるとなっていて、ちゃんと実現に向けて着実に進んでいることが明確であっても、各段階の記載内容や他分野との連携、市民との役割分担、市民も理解しやすい表記、いずれかに大きく改善の余地がある、どれかに大きな改善の余地があるのもC評価というふうな御回答になっているので、そう考えると着実に進んでいますし、制約がある中で、市の方々もすごく汗をかいていらっしゃるのも分かりますけれども、やっぱり大きな課題はあるといえはあると思いますので、一概にBなのかCなのか、この後、皆さんと議論してもいいことなのかなと思いました。以上です。

#### 【会長】

ありがとうございます。続いてお願いします。

#### 【委員】

私は、全体的な評価は、各項目の評価ともBが多いのですけれども、今回は拠点を結ぶまちづくりということで、道路とか鉄道、バスということで、利害関係じゃなく、あるいは、道路でも国とか、県とか、あと鉄道とかバスのほう、鉄道事業者等、そういう関係者も多い中で、何か各項目分かりづらい、この先どう進んでいくのか、具体的に何だか分かりづらいというところもあって。ただ、取り組み内容としてはいいのかなというところで、大体Bという評価になったのですけれども。取組状況に関しても、目標実現とかニーズとか、何かBなのかなという感じで評価しました。

その中で、分野間の連携というのが、ちょっと見当違いだったのかもしれないのですけれども、北総鉄道に関して、鉄道事業者と沿線地域との連携というのが図られていて、これはすごくいいことだなと思ったので、また引き続き強固な関係を築いていってもらえればなと思っています。

成果に関しても分かりづらいところがあったので、Bにしています。

あと、改善のところもBにしています。

あと、分かりやすさというところも、分かりやすい記載というか、各事業内容に対しても、やっぱり市民に何か伝わっていないところが多いのかなというところで、分かりやす

いというよりかは、PRとといいますか、そういうものをもっと広めていけばいいのかな  
と思い、Bにしています。

総合評価のほうも非常に進んでいると思うのですけれども、Bくらいかなというところ  
で評価をしています。

#### 【会長】

ありがとうございます。続いてお願いいたします。

#### 【委員】

よろしくお願ひします。私も先ほどの議事の1-2のつけ方と同じようにつけてい  
ますが、Cでいいますと、成果のところの、遅れている取組がある場合の原因が捉えられ  
ているかというところにCなのですが、ここも私の判断では、エビデンスが不十分かなと  
思って、Cがついています。

そのほかは、先ほどと同じAとB、若干Bが多い、先ほどのようにBが多いのですが、  
一定の評価基準に沿って見ると、一定の状況に達しているかなというふうな感じがしてい  
ます。

今後の改善提案のところ、先ほどともかぶっていますが、先ほど委員の方、整理して  
くださいましたが、市民生活か産業目線か。どうしても、この分野だと産業目線のほうに目  
が行きがちですが、道路行政見れば、道路の修理とか改修とかというスケジュールがきめ  
細かく示されていていいな、そこはとても好感触でした。

あと、構想道路の説明もすごく分かりやすく説明してくださって、やはり企業誘致の拠  
点形成と道路整備というのは重要なのだなというようなところが、大変よく分かりました。

その辺も含めて、市民に積極的にそういう資料を利用されたらいいかなというふう  
に思いましたのと、あと、企業誘致基本方針でしたか、つくっておられましたか、あれな  
かなかよくできていまして、どこにどういう系の企業を、どういうふうに拠点形成で置  
きたいかなんていうことがよくつくられているんですね。だから、ああいう資料も、多  
分公表してもそんなに悪影響はないと思いますが、市民の方に説明するとき、該当す  
る地域の方々だけではなく説明されたらいいし、地区まちづくり協議会も、これだけ  
きめ細かく取り組んでおられるところって、なかなかないと思うのです。そういう  
ところもいい資料をいっぱい作っておられますので、個々の情報は、なかなかお知  
らせ、公開できないものが多いと思いますが、こういう仕組みで、こういうふう  
に取り組んでいるというところは、ぜひ市民に伝えられたらいいのかなという  
ふうに思います。

いずれにしろ、ここも産業目線でいうと、先ほどの企業誘致と道路整備を一体的  
に進める、決まった時間内の中で進めるということについては、予算と、あとは決  
断のスピードですよね。そこは、踏み込んで言えば、市長をリーダーシップと決  
めて、予算と決断のタイミングを見誤らないように、全庁を挙げて、より一層  
進めていただければいいかなとい

うふうに思いました。以上です。

## 【会長】

ありがとうございます。

最後、私ですけれども、先ほどと同様に、少し厳しめにはつけてありますけれども、やっぱり気になりますのは、一つは拠点をめぐる考え方というものが、この計画フレームの中だと非常に散漫になってしまっているという印象があって。そうであるが故に、施策事業の具体的な取組に、戦略性というのがなかなか感じられないというところが、やっぱり一番気になっているところです。

つまり、皆様の話の中にもありましたけれども、一方では、企業誘致と連動した視点ですよね。要するに産業をどう、産業構想との関りで捉えられる部分と。でも、そういうコミュニティバスの公共交通という、福祉的な側面があるわけで。そうすると、拠点をつなぐといっても、産業的な視点と福祉的な視点というものが、まず拠点はそもそもどう捉えられるのかというのが、全然分野が違うということで散漫になってしまいます。それをつなぐといっても、ばらばらのものを、またばらばらにつなぐということはなかなか難しいので、そこら辺のつながりをどんなふうに考えていけばいいのかというのは、改めて整理していく必要があるのかなというふうに思います。

ですから、そこが一番の意味ではベースに関わってくる場所なので、個々の取組、個々のものを取り上げていく限りは、もうB評価とか、一定の評価はもちろんできるわけですが、いかんせん今言った根本的な部分における曖昧さ、散漫さという部分があるので、トータルで見ると、やっぱりどうしても低い評価をせざるを得ないのかなというふうに思います。

ですから、拠点というのは、それぞれの分野で拠点、拠点というふうなことが言われるわけですが、どんな拠点をつくっていくのか。例えば、北総沿線における拠点整備、にぎわいといっても、何を持ったのにぎわいなのかということが、まだまだ曖昧なのですよね。だから、市内の方が集まるにぎわいなのか、市外からいろいろな方々が来るというにぎわいなのか、両方なのかというあたりが具体的な施策事業の中に見えてこない。どこに焦点が合わせられているのかということが見えてこないという。であるが故に、それをつなぐといっても、ちょっとピンとこないというふうな印象があります。

それから、公共交通に関しては、これほど悩ましいところですが、ただ単に移動を支援していく、移動を補完していくというだけでは、多分かなり厳しいのではないかという。だから、いろいろな手法を導入してはやめて、導入してはやめてという自治体が多いわけですが、これは移動の在り方ということを含めて市民とともに考えていかないと、市民も、バスだったらバスというものを使おうというふうに考えて、そういう生活スタイルというものを改めてつくっていかう、作り直していかうという、そういう

ふうな機運とともに公共交通ということを考えていかないと、ただ単に何本通しますというふうな話をしていても、何本通そうが、使わない市民は使わないのですよね。だから、施策がすごく空回りしちゃうのですよ。だから、それは本当に使う、どういうふうにするのか、どんなふうに戻廊するのか、どんなふうに移動していくのかという、こういう在り方とともに考えていかないと、その辺、実質化していかないとはいえないかというふうにも思いますので、その点もちょっと指摘しておきたいというふうに思います。

ということで、一通り今、各委員から評価を頂きましたけれども、評価を踏まえた上で、まず全体としての総合評価をどうするかということなのですけれども、先ほどはB評価の方が6名、C評価の方が3名でしたので、一応B評価とさせていただきますけれども、今回はB評価が5人、C評価が4人ということで、かなり拮抗しているところもありますけれども、この総合評価について、もし御意見等があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【委員】

私は、ここの表にはBで提出させていただいたのですけれども、改めて読み直してみると、的確に進んではいても、大きな課題というか指摘点が認められたものは、BではなくCというガイドラインのようなので、でしたら私、ここCに1票入れまして、BからCへと移動していいかなというふうに思いました。提言という意味で。

#### 【会長】

今、委員から修正が出て、そうすると、Cが今度5名ということになって、トータル、ただ単にどっちが多いかというふうな話だけに関連されるものでも、もちろんありませんし、今出たいろいろな御意見を含めて、報告書として提出させていただくので、あくまでも一つの目安というふうな形にはなりますけれども、かなりそれぞれの点で大きな改善点があるという意味では、C評価というふうなこともできるかなと思いますけれども、いかがでしょうか。C評価だと厳し過ぎるのではないかという御意見がもしありましたら、お願いしたいと思いますが、この辺いかがでしょうか。

#### 【委員】

すみません、厳し過ぎると思います。市民目線というか住民目線ではないことをあえて承知で言いますが、市民への分かりにくさも分かりますが、一方では、なかなか表現しようにもし切れない。でも、十分、その中で表現しようとする武器というか、ネタは持っているかなと思っていて。そこは、私個人で言うと、非常に頑張っているなという。他市のところも参考にしながらですが、市はちょっとかわいそうかな、元気なくしちゃうかなというような心配が逆にあります。そういう厳しい声も耳で聞いておきながら、私、Bをより本当のBにしていく、Cに近いBをBにしていったらいいかなんていうふうに個人的には思っています。最終的に、会長にお任せしたらいいかなというふうに考えます。以上

です。

**【会長】**

ありがとうございます。少し厳し過ぎるという。非常に厳しい制約下の中で取り組んでいることなので、その結果だけを取ってしまうと、かなり厳しいところになってしまうと。だけれども、そのプロセス、取組状況を踏まえると、あるいは、今後に向けての歩みということも踏まえると、むしろBのほうが望ましいのではないかという御意見もありますけれども。

ほかの方がいかがでしょうか。私だけで決めるとなると、かなり荷が重いので、ぜひ御意見頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

**【委員】**

私も最初はBをつけていた人間なので、とてもよく分かるのですよね。物によっては、先ほどの評価もだけれども、今回の改善のAの部分、改善の問題・課題が的確に捉えられているかのところでA評価をつけさせていただいたのも、どうしても予算的な制約もありますし、どうしても中長期的に時間がかかる政策なので、市の方々も頑張っているというの、この間の勉強会でもとてもよく分かりましたので、あれでC以下の評価にすると、そこを評価してあげていないのではないかというくらいの感じになってしまうのではないかという、その気持ちは私も全く同じなのですよね。

ただ、これを見ると、他分野等との連携や市民等との役割分担、市民等の理解しやすい表記、いずれかに大きく改善の余地があると。そこで非常に両天秤だなという思いはあります。

**【会長】**

ほかにいかがですか。

**【委員】**

BとCと、今回言う、この後言う、また二つ評価があるのですよね。我々の白井市全体の政策を考えて、重要度と言うと言葉がおかしいかもしれませんが、ここの部分では、次のみどりの部分よりかは生活の面に関わりが大きい。そういう中で、拠点をつぶすという意味では課題と、拠点をつくっていくという課題がある中で、それなりに次のみどりの部分より進んでいるのではないかなという気がするので、Bくらいでいいのではないかなという感じは思っております。そんなところです。

**【会長】**

ほかに意見はいかがでしょう。

**【委員】**

私の評価はBにしたのですけれども、今回の戦略、拠点というと、さっき会長もおっしゃったように、結構曖昧なところもありますし、また、各取組も、なかなか白井市ではで

きない、国とか鉄道事業者等いろいろな利害関係者と関わっている中で、各取組に関しては、正直BとかCって、Cというとやや劣っているようになっているのですが、そんなに劣っているほどでも、取組をいろいろとしているようなのは感じられなかったところもありますし、でも、積極的にいろいろな取組に対して取り組んでいるのかなというところもあって、私はBでいいのかなと思います。

【会長】

Bという御発言が多いですけれども。

【委員】

産業振興での今四つ目として、農商工に観光という課題が出ていて、あるのですね。なかなか回遊性、そしてもう一つ、拠点という意味では、工業団地も一つの拠点なのだよという位置づけがされたわけですが、そういう意味では一歩、市の政策をどう進めていくかという視点の中に、そういうものが入ってきている。そして、それを進めようとしているということを感じ。そして、また政策に上げてきているものをぜひ後押ししていきたいという期待値も込めて、ぜひBで評価してあげて、もっともっとやってくれよという思いを述べさせていただきました。以上です。

【会長】

Bという御発言が多いので、どうしましょう。例えば、じゃあB評価にして、コメント等で少し厳しいことを書かせていただくというふうなことであれば、実質、報告書としてもお伝えできるのかなというふうに思いますので、どうでしょうか、B評価というふうに総合評価はさせていただくということで、この後、改善点、もうちょっと御意見を伺えればと思いますので、評価としてはそのような形にさせていただこうと思いますけれども、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、この施策についてはB評価というふうな形で、まず評価をさせていただきたいと思います。

その上で、先ほどと同じように、お手元にA4のペーパーで、今後に向けた改善点等について上げていただいております。やはり拠点を結ぶといっても、拠点そのものにいろいろな側面があるので、そこを改めて明確にさせていくと同時に、その下に積極的なつなぎというものを今まで以上に図っていくというふうなことは、皆さん共通されているところかと思いますが、ぜひ今後の改善点ということで、この点は強調しておきたいといったことがありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

1-2、3-3は一体的にというお話ございましたけれども、トータルで見て、その辺、改めていかがでしょうか。

【委員】

今までの議論の中で大分含まれているので、よろしいかなとは思いますが。

## 【会長】

ありがとうございます。先ほどから出ていますように、企業誘致の部分、拠点形成の部分、道路ネットワークの拡充というものを一体的に進めていく。かつ、スピード感をもってという、かなりこの制約下の中での話ではありますけれども、それを期待したいというふうな意見です。

ほかにいかがですか。

## 【委員】

私は改善提案で書かせてもらったのですけれども、それは本当に予算とかコストもかかる話なので、全然先の話かなと思うのですけれども。ただ、市民の足として、今後は、バスというのは本当に重要になってくるのかと思ったので。今コミュニティバスのロケーションシステムというのですか、を導入されたのですけれども、今後の話なのですけれども、よく都内とかでしたら、各バス停に何かデジタルサイネージを設けて、今度いつバスが来るとか、そういうのが結構見受けられるのですけれども、この白井市の中も、コミュニティバスとかというふうに書いているのですけれども、あと、私のほうは、コミュニティバス以外にも民間のバス事業者のバス停もあるのですけれども、そういうところにデジタルサイネージを設けて、バス利用者の利便性を向上させて、利用者増加の足掛かりにもできないかなと思います。

だから、今後の話ですから、北総鉄道は北総鉄道と、あと地域自治体と協議会を結んだので、今後バスのほう、バス事業者と何かそういうものをつくっていけられたら、またよりいい方向になるのかなと思います。

## 【委員】

やっぱり市民目線で、これによって、どのような市民生活が実現できるのかというビジョンというか、イメージが伝わるようにしたほうがいいなという部分と。一つ一つの構想道路のつくりだったりとか、あと西白井、白井それぞれの駅前の再活性化であるとか、それ以外の構想道路、細かな生活道路の進捗であったりとか。あとは、北総の値下げのPRであったり、バスロケーションにしてもさらなるコミュニティバスの充実、交通弱者に配慮があって、それぞれ一つ一つの政策、手段であり点であるわけなので、これをいかに面にして見せていって、線をつないで面にして見せていくのかということが大事であり、これによって市民生活がどうなのか。もちろん今住んでいる我々の市民生活もそうですし、バス、鉄道、道路が一体となった様々な交通軸によって市内各地の生活のバックアップとなり、白井に移り住むことにつながると思います。

平日の働き方は、これは感想ですけれども、新しい構想道路沿いには、市内でテレワークする人のためのテレワーク拠点みたいなのがあって、そこに車でお父さんは行ったり、たまに出勤するときは、北総線に乗って都内に行ったり。いずれはインターチェンジから



車でも都内や成田のほうへ行ったり。子供連れのお母さんとか、学生さんとかは、市内のいろいろなバス停、ここでこういうイベントがあるときに行ったり、ここでこの試合に行ったりみたいな感じで、様々な市内に住んでいるいろいろな住民、高齢者、シニアの方々を含めて、こういった方々は、こういった生活が、こういった交通ネットワークによって実現できますという部分が伝わっていきるといいのかなというふうに感じました。

結局、最終的には、これはネットワーク手段なので、ここの目的は、最後はほかの戦略にありますような、にぎわいづくりと働く場というところに。結局これらのネットワークが充実すると、市内にたくさんのにぎわいの場ができると。働く場ができていくというふうなことに。結局、目的はそっちにつながっていくと思います。そういう意味でも、この八つの戦略は政策連動しているのかなという部分とかを答えられるかなと思いました。

#### 【会長】

その辺、他の取組との連動性、それをより一層高めていくということで、この点も併せて指摘をさせていただきたいと思いますが、ほかにはよろしいでしょうか。

あと、こういう拠点の中で、委員のどなたかも書かれておられましたけれども、拠点にしても、拠点をつなぐにしても、白井単独で考えていくということの限界というものもやっぱりあるわけで、そういう意味では、近隣市との、これは連携ということなのかどうかは分かりませんが、少し白井単独ということだけではない、広域的な視点の中での位置づけ。道路とかそういったものは、ある程度ハード面で決めていかざるを得ない部分がありますけれども、ソフト面で考えていくと、その辺はかなり大事な課題になってくるところで、どういう人の流れ、どういう移動の在り方というものを捉えていくのかという。これは、やっぱり生活するという実態があるわけなのですね。ここで生活するという、働きに行くというところから始まって、あるいは、通学するというところから始まって、どんなつながりの中に拠点というものを位置づけていくのかという辺りが、より深掘りされていかないと、言い方を替えれば、もっと目的志向で拠点とかネットワークというものを考えていかないと、なかなか実質化していかないのかなというところもありますので、その点も併せて指摘させていただきたいと思います。

そろそろ時間ですけれども、ほかにもこの点ということはございますでしょうか。

ないようでしたら、今日頂戴した御意見、これも改めて取りまとめをさせていただいた上で、次の審議会に改めて諮らせていただきたいと思います。

## ■第2部■

### ○戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり

#### 【会長】

皆さん、こんにちは。猛暑の中、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

第3回の総合計画審議会を始めさせていただきたいと思います。

先日は、今日対象としている2施策の勉強会とグループワークということで、いろいろ御議論いただきました。今日は、その議論を踏まえながら、事前に提出いただいた各委員の評価、これを取りまとめたものを基に、議論のほうをさらに深掘りしていくということを予定しています。

今日は、既に先ほど午後1時から、グループAのほうで二つの施策について評価をしたところです。この3時から、残りの二つを御議論いただくということで予定をされています。

今日の基本的な流れ、後でまた説明あるかと思いますが、基本的には、二つの施策それぞれの総合評価をAからDを決めるということと、それから、今後に向けた改善点、これを委員の皆様の方から伺いながら、少し協議をするという、これを今日の目的として会議のほうを進めていきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

あとは、冒頭に申し上げておきたいと思いますが、これは、いわゆる外部評価と言われる、3次評価ですね、外部評価ということで、市民の立場から施策の評価を加えていくということですから、これまで1次評価、2次評価、内部でなされてきていますが、3次評価は外部評価ということで、これは市民の皆さんが、それぞれ皆さんの委員のお立場から見て、この施策というのは本当にこれでいいのだろうか、あるいは、非常によくやっているぞ、いろいろな見方があると思いますので、その辺は遠慮することなく評価を出していただければと思いますし、また、今後に向けての改善点ですね。特に改善点は、市民の目線というのは、非常に今後に向けて大事な指摘になるところですので、遠慮なく御発言いただければというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題のほうに入らせていただきたいと思います。議題（1）評価の実施ということで、まず事務局のほうから説明をお願いいたします。

#### 【事務局】

資料に沿って説明

#### 【会長】

今、事務局のほうから説明がありましたけれども、一応これまでやってきた勉強会と、それから意見交換会、そして、皆さんから頂いている現段階での評価シート、これを取りまとめておりますので、これを基に、以下、協議のほうをさせていただきたいと思います。

先ほど申し上げましたように、個々の項目について評価を統一させるということはありませんので、あくまでも総合評価の部分のみ、全体として評価、AからDのどれかというふうな評価をするというのが、まず我々の今日の役目の一つです。

もう一つは、改善点ということで、既にお手元に改善点まとめた一覧のものもございま

すけれども、それを踏まえて、この事業をもっとこうしたほうがいいのではないかというふうなことがありましたら、ぜひ提言という形で報告したいと思いますので、御意見等を頂戴できればというふうに思っております。

まず、進め方ですけれども、お一人ずつ、まず御自身がこういうポイントで評価したということについて、簡単に御説明をいただければと思います。一巡しましたら、総合評価をかかりたいというふうに思いますので、まずはお一人ずつお願いしたいと思います。

#### 【委員】

取組状況としては、なかなか目標として、かかわれる農のまちづくりというテーマ、大変自分自身も難しい課題だなというふうに感じております。白井市の中で大きな戦略としてこれを取り上げているのですけれども、どこまでこの目標を総合計画の中で進めて、成果を出していかなくてはいけないのかというのは、自分自身で分からないなというところがあります。そんな意味では、こんなのを書かせてもらった私です。

それと、もう一つは、いろいろな機会の中で、若手の農家の方とお話する機会があったのですけれども、なかなか若手の農家の方が声を大きくし、こういうところに加わり、10年、20年先を見据えた農業施策のことについて触れることは、少ないなというふうに感じております。ですから、メインである梨づくり自身が難しい状況かなというように感じております。ですから、成果としてもCとつけさせていただきました。大変残念ながら、成果はなかなか上がっていないなというような感じ。

それから、改善という意味でも、当事者から建設的な問題提起があまり多くないなという感じですね。

また、分かりやすさというところでも、かかわれる農のまちづくりという意味では、一般市民としての目線では、とても分かりにくい状況だなということで書かせてもらいました。以上です。

#### 【会長】

ありがとうございます。続けてお願いします。

#### 【委員】

私は、一市民として白井市の農業というのが、知り合いはいるので多少関わることはあるのですけれども、この施策を見ると、なかなかいろいろ模索中のことが多いなという感じがあります。

ただ、取組目標とか求める成果とかの方向性や進め方は、私個人としては、緑の多い白井市の市民ニーズには則していると思います。特に、白井市は梨の産業が盛んであることで、それを積極的に白井市の支援として、もっと支援していただけたらいいと思いますので、施策としては、ぜひ残していただけたらと思っています。

ただ、課題としては、全国的に農業従事者が減少する中で、白井市も高齢化や後継者不

足で農業をやる人が減っていくので、それを何とか少しでも食い止める策として、取組1でいろいろな事業を展開されているのですが、それがまだまだこれからとか、検討中とかいう感じのものが多く、定性的評価とか定量評価を見ますと、そういう感じが多いので。例えば農地に利用する集積とか、平塚地区の地域計画とか、この先どのように展開していくのか、まだ先が見通せません。ですが、今現在取り組んでいることは、白井市の中でできることとして大きく外れていないという気がしますので、私はB評価というふうにさせていただきました。

**【会長】**

ありがとうございます。続けてお願いいたします。

**【委員】**

私は、前回みどりを育み活かすまちづくりについて、子供さんとかにお聞きしましたら、とっても体験学習がよかったと。これからも継続して、こういうのをやってほしいと言って、だったので、私は評価高くしました。

先ほども、委員もおっしゃっていましたが、ここの白井市は、緑がまだまだ多いので。それで今回はBとしたのですが、最初にここを企画したときに地域を見なきゃ、現場を見なきゃ語れないよというふうに委員から言われまして、いろいろなところに見に行ったのですね。そのときから見ると、そのとき本当に雑草が多くて、怖い思いもしたのですが、これを見ていると、随分皆さん手を入れてきれいにさせていただいて、市民と協働で関わって、関係団体がすごく多いなど。子供たちも参加したいという声がありました。だから、私はすごく行政のほうの企画がどんどん進められていっているなどと思っています。そういう意味で、ぜひこれはそのまま継続して、小・中・高、また高齢者の人たちも関わっていけるような企画を継続してやっていただきたいなどと思います。

それで、梨のほうは、私の知っている方も何人か地元の農家の方いらっしゃるのですが、梨農家の方が。そして、一番困っているのは何と聞いたら、4人ほど聞きましたら、やっぱり継承者が少ないと。なかなか息子がねというので。息子がやるよと言ってくられても、なかなかお嫁さんが、私はそういうふうじゃないという点で、ちょっと躊躇されているところも結構あったりしていずれは共にやっていかないと、私たちは高齢になるから、そのうちやってくれると思うけれどもということでした。

それと、皆さんで横のつながりもすごくできていけばいいのかな。白井の梨農家の方が一丸となって、上手にやっていただければいいのかなと思う。

時々、私も寂しいと思ったから、この方に言ったのですけれども、梨畑がなくなっているのが多いよねと。でも、みんなおいしい梨を皆さんに食べていただきたいために一生懸命やっているから、頑張っていくよと言われたので、ちょっと期待しているところです。

**【会長】**

ありがとうございます。続いてお願いします。

**【委員】**

私は、個々の事業については、とっとも進められている、また、新しいことにも取り組まれているということで、実際に行政側も、何が課題で何を考えていかなきゃいけないかということとは十分把握されていると考えられていると思います。

ただ、それをどうしていったらいいか。この目標、特に1番の就農支援については、立ち上げ支援という考え方で、一生懸命その部分をされているし、定着支援につながるよということもされているのですけれども、なかなか定着がされない例もあるということが、この間お話にもあって、本当に難しい事業なのだなというふうに感じました。なので、ただ、何が課題なのかをしっかりと捉えられている点で、今後の目標づくりと、あと、どういう展開を、今後新しい展開も含めて、どうしていったらいいかということをつまていけば、これからにもすごく期待ができるころなのかなというふうに思いました。現状のところの評価させていただいたりしたのはのですけれども、この内容については、明るい面もすごくあるのではないかなというふうに感じました。

個人的にも、昨日いろいろなところの梨を売っていらっしゃるところの販売所も個人的に回らせていただいたときに、ほとんどが売切れで、もう幸水手に入りませんというような状況も見受けられて、早いうちから本当に予約が入って、とっとも人気があるということも、すごく肌で感じて分かりましたので、もっと本当に応援していきたい事業かなと思いました。

**【会長】**

ありがとうございます。続けてお願いいたします。

**【委員】**

私は、今現在だけではなく将来を見据えたものということで、そういう視点で見させていただきました。白井の梨は、市場でもとても高い評価を得ているということを伺いまして、たくさんの農家さんのおかげでそういう評価があると思うのですけれども、その反面で、少しずつ梨農家さんがやめていかれているということがあって、今、市場では高い評価があったとしても、このまま減っていったら、その高い評価は得られなくなってしまう。じゃあ、得られなくしてしまう前に、何か本来はすべきことがあるのではないかと、そういうことを農家の方々にやはり伝えて、これから、今の評価が高いからいいだけではなくて、将来の梨、また、農を見据えた視点が少しないというか、理解していただけていないのかなというのをすごく非常に感じました。以上です。

**【会長】**

私のほうからも一言申し上げたいと思いますけれども、農業振興というのはかなり難しい課題というところがあって、本当に何をどこから、どういうふうにやればいいの

かというのがなかなか難しいところもあるのが実情だと思います。

県内のいろいろな自治体の農業振興、農業政策というのを見ていても、とりわけ後継者がなかなか育たない、あるいは出てこないというところから始まって、そういう意味合いの難しさもありますし。農村地域としての農だよと。それから、白井のように都市部に近いところの在り方も、また違う部分もあって、そういう意味で、本当にこれから農業をどういうふうに持続させていけるかどうかというのは、長い目で見ると、やっぱりいい、一つの転換期にあるのかなという印象があります。

ですから、町によっては、農地というのは基本的に守っていくというふうな発想の下に動いてはいるわけですがけれども、どんどん転用していくというふうにし始めているところもありますし。かといって、それは拙速だというふうにしているところもある。だけれども、守るってどういうことなのかということは、それもまた考え方がいろいろ多様化してきているようで、むしろどんどん柔軟に、ある程度農地というものを集積していく、集約していくというふうなことをしないと守っていけないのだというふうなこともあったりもしますし。その辺はなかなか難しい状況かと思えますけれども。

いずれにしても、白井として農業の持続可能性というものをどういうふうに考えていくのかという辺りは、まず根本的な部分で、少しトータルな在り方、見方というものを持っていくということが大事なのではないかというのは、これまでも評価していて痛感するところです。その部分がないと、結局、後継者育成といっても、どういうふうに後を継いでいけばいいのかというのが、個々の農家単位だとなかなか判断しづらい。先ほど委員がおっしゃっていたような状況もあったりしますし、なかなか家族という単位で農業を継いでいくということが難しくなっている。

だから、法人化だなんていうふうな話も出てくるわけですがけれども、その法人化をめぐる情報提供、理解というの、まだまだこれからというところもあるでしょうから、その辺どういうふうにしていくのか。仮に法人化していくにしても、白井の農業というのは、どういう方向に向かおうとしているのかというふうなこととともに考えていかないと、ただ手法として法人化するんだ、違う、もっとこういうやり方でいくんだというふうなことが問われて、それに対する支援というものがなされたとしても、多分続かないというところがあると思います。そういう意味では、根本的な方向性というものをしっかり捉えていくということが大事なのかな。その中で、農業経営に対する支援とか、担い手の在り方というものをもうちょっと詰めていく必要があるのかな。

これは白井だけではないのですよ。ほかのところの外部評価なんかをやっていても、例えば、後継者支援というふうなことで一定の補助金を出したりとか、いろいろな学びの場をつくったりということはやっているのです。けれども、結局単発で終わってしまっている側面というのが非常に強いのですよね。だから、そういう辺りをどうしていくのかとい

うことと。

それから、先ほど梨の可能性、ブランド化ということもありますけれども、この辺もある種の戦略性ということが問われるでしょうし、梨だけに限らず、他の農産物ということも考えたときに、それも結局作り手、担い手ということだけではなくて、消費ということと併せて、どんな在り方を考え、そこにどういう支援をしていくのかというふうな、そういう部分、単発ではなくて、生産と消費というものをしっかり結びつけた上で、どういう支援をどういうふうにしていくのか。

かかわれる農ですから、もちろん後継者としての関わりということもあるけれども、ここに、例えば流通に関することとか、ブランド化に関することという、いろいろな形で関われる人たちがいると。そういう人たちが、今、白井の中でどんなふうにかき集められているのか、どんなふうに生かされているのかといったあたりも、戦略性ととも考えていくということが問われるのかな。

いずれにしても、その辺、かなり根本的なことがどうしても気になってしまうというところもあって、全体としては少し厳しい評価をしました。

あともう一つは、農業といっても、近年ではもちろん6次産業化のような方向が模索されてもいますし、例えば、勉強会するときでも、グループワークのときでも出たような農福連携であったりとかいう、これも福祉という視点からの農への関わりなのですよ。だから、そう考えていくと、農業と協力とか、農業と福祉とか、農業と子育てとか、農業と障害者福祉とか、いろいろな部分での接点がある。そういう部分というのも、もっと積極的に見つけていくような在り方というものも、長期的には問われていくのかなというふうに思いますので、その点も指摘だけさせておいていただきたいと思います。

ということで、一応一巡いたしましたので、まず全体としての総合評価を確認させていただければと思いますけれども。今、各委員から出された評価を拝見しますと、全部で7名ですね。7名のうち、B評価がお二人、C評価が5名ということになっています。かなり厳しい結果ではありますが、必ずしも数の多い、少ないで決めるのもどうかと思いますので、あくまでも実績にどういうふうに評価するかということが問われなければならないということを前提とした上で、トータルの評価を出すという必要がありますので、一応今のところ、全体を勘案すると、C評価になるのかなというところですが、この評価の在り方について、皆様のほうから御意見等があればお願いしたいと思います。

もちろん、C評価というだけを切り取ってしまうと、全然やっていないではないかというふうに思われがちなところがありますけれども、今、皆さん御指摘いただいたように、基本的にはなされていることについては評価されておられますし、それをよりよい方向に持っていくという意味で、いろいろなお答えもいただいているところですが、そのことを踏まえた上で、さらに頑張ってもらいたいという意味でのC評価なのかなというふうに





同じように、市民農園も2園か、2か所とも全区域埋まっているとおっしゃって、書いてありますし、多分もっとやりたい方もいるのではないかなと思います。

前回の質問にも書いたのですが、個人的に農家さんが自分で農園を貸し出して、そこを借りてという方もいて。でも、市がここに入ってくるということは、多分いろいろな設備を整えたりとかしなければいけないので、お金もすごくかかることだと思うのですよね。だけれども、そういうほうが多分、市民としては借りやすかったりするところもあると思うので、関わっていけることが、市民も高齢化してくるので、ちょっと暇を持て遊ぶわけではないけれども、そういうところにも関わりたいなと思うような方がまた増えていращるのではないかなと思っていますので、続けて広報とかいろいろなもので皆さんに知らせていっていただけたらいいかなと思います。

ちょっと話がぐちゃぐちゃしてしまったのですが、私は応援していきたいと思います。よろしくをお願いします。

#### 【会長】

今後の改善点とか、今後こうしていってもらいたいということ、この後、皆さんからさらに御意見頂きたいと思うのですけれども。取りあえず評価としては、半ば形式的ではありますがけれども、C評価ということでさせていただいてよろしいでしょうか。

今後に向けた改善点ということについて、今、委員のほうからも、いろいろな市内外の方々が、ここを体験したり関わったりすることができるような、そういう裾野をもっと開いていったりとかというふうな御意見を頂戴しましたけれども。

ほかに今後に向けて、こうしていってもらいたいというふうなことがありましたら、ぜひ御意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【委員】

ここの取組目標というので、数値目標があるわけですね。目標値は1,060ヘクタール。これを最大の目標値として定めていて、そういう中でいろいろな施策を考えていくということでもいいのかどうか。農業者は、この目標値を自覚して考えているのか。そうではない形態を含めて、この目標値をどういう形で目標をしていこうか、しているのは、なかなか産業振興なんかに関わった、産業としての農業ですね。その部分がなかなか明確に伝えるということと、計画がしにくいなということを感じて、関わってきているというところなのですね。これを機会に、課長がいるので、その辺の何か見解を伺えればと思います。

#### 【産業振興課長】

そうしましたら、農業をやるための原資といいますか、一番大本になるもの、これ皆さんお分かりかと思いますが、農地ですね。農地を守っていくということが、市の産業振興の一丁目一番地といいますか、農地がなくなれば、そもそも産業振興なんて要らなくなります。そのためには、やはり農地をちゃんと維持管理してくれている担い手ですか、そうい

う方を育成していくというのが一番効率的ではないかなと。営農してくれる人は、別に農地の持ち主ではなくてもいいわけですので。例えば大規模な企業、よその市では、イオンとかが進出して農業をやっていたりします。

でもいいし、例えば、改善点にも書いたのですけれども、仕事は持っているのですけれども、週末は農家をやりたいという人たちがやってくれても農地は維持できている。そういうような方向で進めていって、取りあえずは農地を守っていくというのが大前提かなと思います。

今年の4月1日、農地法の法律が改正になりまして、下限面積というのがあるのですよ。農地の権利の取得をするための下限面積というのがありまして、これは5,000平米なのですね。改正前は。農家の人は、当然農地いっぱい持っていますので、広げようと思えば幾らでも権利貸したり買ったりはできるのですけれども、農家以外の人が農家を始める場合って、いきなり5,000平米から始めてくださいという法律だったのですね。それは、農業を始める人には非常に。何をやるかにもよりますよ。田んぼなんかは、5,000平米なんて大したことないので、すぐに始められると思うのですけれども、畑を5,000平米はかなり厳しい面積ですので。国のほうもそういうことを理解してなのか分からないのですけれども、やはり農業専属でやる人だけで農地を守っていくというのは、非常に難しいのではないかとということで、法律改正、5,000平米という下限面積が撤廃されました。

ですので、その撤廃されたのを活用して、白井市でも兼業農家ですか、そういう人たちを農地を保全していくために育成していければと思って、今、調査研究している段階です。

それと、あとは大規模にやってくれる企業ですか。企業は市の農地を借りて農家をやってくれるためには何が必要かということ、やっぱり集積、集約なのですね。広い農地がないと効率的にできませんので。集積、集約するために必要な施策というのは何かということ、農地ってみんな持ち主、地権者がいますので、地権者が貸してくれる、もしくは売ってくれるというのが前提になるのですね。地権者がそういうふうに売ってくれたり貸してくれたりするような取組ですか。貸してもいいよと言えるような施策。具体的には、まだこれから検討していく。そういうのを取り入れていかないと、農地はまとまっていきませんので、そういう農地を検討しているところ。大きな農地を活用して企業、小さな農地で兼業農家とか、そういう形で、取りあえずは農地を守っていく。それが一丁目一番地かなと思っています。以上です。

#### 【委員】

よく分からなくて申し訳ないのですけれども、5,000平米って、よくヘクタールという、ヘクタールとアールと平方キロメートルと、なかなかぴんとこないのですが、白井の農地って、平方キロメートルでいうと、どのくらいあるのですか。5,000平米って何アールとは。

#### 【産業振興課長】

5,000平米は1ヘクタールの半分の50アールです。法律改正前は、農業者として認められるのではなくて、農地を取得するための最低面積です。

**【委員】**

よく理解していなくて申し訳ないのですが、では、産業として考えていくと、農業者が、農業をやろうという人と、農地を持っているという人とを少し別に考えていくしかない部分があると思うのですよね、これから。なぜならば、農地を持っていても農業をやっていない方いるわけで、その人たちは、でも、親から相続したものだから手放したくない。でも、そういう人たちは農業者なのですか。今、5,000平米以上持っていて、1ヘクタールぐらい持っているけれども、全然農業やっていないよという方も農業者なのですよね。そのところ、よく分からないのですけれども。

**【産業振興課長】**

これは規則的な話になってしまいますけれども、農業委員会に農家台帳というものがあリまして、その台帳に載っていれば農家です。

**【委員】**

方向性としては、今、課長言っておられたように、声としては、やっぱり緑豊かな農地があるなんていうのはいいねという市民としての声はあるわけですよ。そうだとすると、どう維持していくかみたいな具体的な方向性みたいなものを、今言われたようなことがあるならば、それを推し進めるために、我々は何ができるかということだろうと思うのですね。そこを整理して、産業政策としても何が足らなくて、何をやっていったらいいのか、行政として何ができるのか。関わる産業者として何が求められているのかを整理して、進めていくしかないのかなと思うのですね。これを目標として掲げているわけですから、何とか進めていきたいということかと思えます。それだけです。

**【会長】**

農地を守る、あるいは、その担い手を見出していくといっても、多分様々な手法等々がある中で、これをやればいいというものがあるとは特定できるということではなくて、その辺は白井に合ったものをいろいろ調査研究していくしかないところかと思えますけれども。

ただ、いずれにしても、農地を守るってどういうことかということを市民がどれくらい共有しているのかということがすごく気になるのですね。つまり、農業というものに対して、白井市民が農業をどういうふうに考えているのかということをもっと知らないで、多分ベースが上がっていかないのだと思うのですよね。実際は関わる人が携わっていくにしてもです。でも、そういう人たちがいるのだということ、あれは、やっていくということはどういうことなのかということをもっと知るようになっていかないと、なかなか農業を支えていこうというふうな機運にもなっていないし、そういう市民が出てこないというふうなところもあるでしょうから。そういう意味では、今の農業の置かれた状況

というものを、もっと市民の皆さんに伝えいくと同時に、どういう手法、どういうやり方があるのかということも、もっと情報として伝えていっていただきたいというふうには思います。

つまり、潜在的にいろいろ検討している層というのは、一定層、そんなに多くはないにしても、いる。だけれども、その人たちが、こういうやり方だったらやれるかもと、そういうふうな情報がどれくらい得られているのか。それをいろいろ意見交換したり、どんな可能性があるのかということも模索できたりという、そういう場がどれくらいあるかどうか。ある程度、今の事業の枠組みの中でもされているとは思いますが、そういった部分も、これからますます問われてくるころなのかなというふうに思いますので、そういう支援の在り方というものを、大枠はある程度いいとしても、皆さんの御意見を伺っていると、やっぱり精度をもっと高めていっていただきたいというふうな御意見が非常に多いのかなというふうにも思いますので、その点も併せて確認をさせていただきたいと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【会長】

特にないようでしたら、今いろいろ頂戴したことを取りまとめて、次回の審議会で集約したものを改めて皆さんに御確認いただいて、修正したものを最終的に市長のほうに提出するということにしたいと思えますけれども。特に今日の段階ではよろしいでしょうか。

いずれにしても、やれることには限りがあるわけで、そういう意味では、個々の施策というのも大きく変えなくてはいけないということではないとは思いますが、担い手育成の在り方にしても、それから、ブランド化の在り方にしても、それから、いろいろな人たちにもっと関わって、関心を持ってもらって、もっと関わってもらいたいというふうな取組にしても、もっと精度を高めていくことによって、いろいろな人たちがもっと関心を持てるように、あるいは、いろいろなアイデアを出せるように。

私も農家の友人いますけれども、やっぱり若い世代はいろいろなアイデアを持っている。だけれども、そのアイデアというものがなかなか出せる場がないといったときに、市のほうでそうした場というものをもっと積極的につくってくれば、もっと自分たちはいろいろなことが提案できるのだと。関係協会の中だと、やっぱり潰されてしまうというふうな声を非常によく聞くのですよね。そういう意味では、ほかの人たちがどんな考え方を持っているのかということも含めて、いろいろやり取りできるような場というものも非常に大事だし。様々な案の拡大にせよ、ブランド化、6次産業化にせよ、いろいろなことを練っていくという。それを積み重ねていくことが非常に大事かと思えますので、そんなことも念頭に置きながら、最終的な提言のほうもまとめさせていただきたいと思えます。

ということで、施策の2-1については以上とさせていただきたいと思えます。

## ○戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり

### 【会長】

それでは、ここからは戦略2-2です。みどりを育み活かすまちづくりということで、先ほどと同じように、まず各委員から評価された理由を含めて説明をいただいて、全体としての総合評価、AからDのいずれかを決めさせていただきたいと思います。

もう一つは、また今後に向けた改善点提案ということで、皆様のほうから、また御意見頂戴できればと思います。

また、順番にお願いいたします。

### 【委員】

取組状況なのですけれども、幸いにして、白井市民の中でこういうことに関心を持ち、また、関わられる世代がかなりいるのかなと思っております。

ここに私も書きましたように、市民レベルでの小さな運動が根付いているのではないかと。そして、緑の維持管理に高齢化する中で、担い手を確保していくことは難しくはなってくるのですけれども、行政もバックアップしていく、そういう中ではある程度成果を出していけるのではないかなというふうには思っております。

そしてまた、成果としてはある程度の、自分たちの住んでいる地域が、以前より地域の公園に朝早くから一生懸命、植えておられる人もありますし、中学校の歩道よりのところをこれでもかというぐらい頑張っておられる人たちもいますし、そういうところへの行政の支援。金額的にはそう多くなくても、そういうバックアップがあつてやっているということが統一されているのではないかなというふうに思います。

そうは言っても、そういうボランティアだけでやれるのかどうかということも、やはり確認しながら進めていかなくてはいけないのかなと。できていないところとできているところとの差というのはあつて、それで、できていないところにそういうのを広げていくということが、今始めているまちづくり協議会なんかも、こういう側面をどこの協議会も取り入れていくような形を取っていけばいいのではないかなというふうに思っております。

そんなところで、総合評価的には、これまたBということで評価しております。以上です。

### 【会長】

それでは続いてお願いします。

### 【委員】

私は、全体としては、みどりを育み活かすまちづくりは、緩やかですけれども、丁寧に取り組んでいると思っています。

個々の取組を見ていきますと、市民団体の活動も、最近はよく広報で見かけたり、あと、

保健センターにもよく展示がされていたりして、あまり興味のない方でも割と入り込みやすく、参加しやすいような形、あるいは、目に入ってくるような形になっているという取組になっていると思っています。何より、そういう活動をしている人がいるのだと分かることで、白井市の緑のよさとか、そういう方がいらっしゃるということを改めて感じる機会が一つ増えたというふうには感じています。

あと、市民のネットワークづくりでお花を植えるというのも、一番こういうのは入りやすいのかなと思いますし、そこから、じゃあ町をきれいにしていこう、道路をきれいにしていこう、公園のごみも拾っちゃえみたいな感じで進めていけるのではないかなと思うので、こういう取組は、割と明るく楽しく進めていけるという点で評価が高いです。

あと、神々廻の森のグラウンドワークは前もあったと思うのですが、神々廻の森ってそんなに大きな森ではないと思うのですけれども、やっぱり整備をしないと多分いけないところで、そうしないと何となく、夜は電気もつかない暗いところなので危険な場所になりがち、私の勝手なイメージなのですが。そこにグラウンドワークをするということで、市が手を入れてくださる、子供たちが活動するという点で保全が保たれているのではないかなと思いますので、これも私としては続けていけたらいいのではないかなと思っています。

あと、私、清戸市民の森の里山の保全と活用という事業も、市が取組の一つに取り入れられていることで、市民団体の方が協力して手を入れてくださっているのかなと思いますので、そういう点でも保全が保たれているという点で、とてもいいと思っています。

子供の教育も、白井市に住んでいる限り、白井市ってこういう緑があるよとか、きれいごとでなくてもいいのですけれども、多分ほかのところに住んでいても、もっと緑の多いところもあるかもしれないけれども、ここなりの生活の仕方とか環境のよさというものを分かってもらうためにも、どこの教育の環境講座みたいなのが毎年やっていけたらいいのではないかなと思っています。

私は、白井市はある程度整備されて、安全な緑の環境をこのまま保ってほしいと思いますし、そういう点では、この取組は四つとも、そういうことを行っているのではないかなと思っていますので、B評価といたしました。

#### 【会長】

続いてお願いいたします。

#### 【委員】

先ほどと同じ意見になるのですけれども、本当にこのきれいな写真で紹介してもらっているのは、これで私も地元の方に聞いてみましたら、楽しくやることが継続していくのに一番大事なのよねって。それで、皆さんに声かけて子供たちとも一緒にやっていきたいねと。そのためには、やっぱり市のPRとかも。もちろん、うちのほうのボランティアセンターのほうにも、こういう花を植えたいとか、そういうやりたいという方の登録ボランテ

ィア、個人ボランティアなのですけれども、団体ボランティアなんかも白井にたくさんいらっしゃるんで、お声かけはしているんですね。

それで、先ほど言った、ライオンズクラブが年に1回、蛍を開放して、高齢者と子供たちにと。子供たちはお菓子の大きな袋、ああいうものとかを全部寄附してくれているのですけれども、それも楽しみで来ているのかなと思うのです。とってもこれ好評なので、私も1度、母を連れていったら、母は高齢なのに、お菓子をもらって、にこにこして笑っていましたが。だから、もう90過ぎれば子供と一緒になんて、誰もが昔おっしゃっていただいたのですけれども。でも、本当にそういういろいろな、先ほど委員さんもおっしゃっていましたが、白井ならではの地域ちゃんと生かして、皆さんとやっていけたらと思います。

それと、私いつも頼んでいることなのですけれども、白井市役所から白井駅の通り、沿道のほうに四季の花が常に咲いているんですね。前はばらばらとなる時もあったのですが、今また持ち直して、いつもきれいに咲いているのです。最近その沿道のほうを見ていると、皆さんネットワークの方たちの協力があって、私たちの目を楽しませていただいているのかなと思って。うちのボランティア登録されている方なんかも、来られたら、きれいな花壇って見たいでしょう。一緒にやってみないとかと言ったら、一緒にやってよねと言うので、そうねと、言った自分は責任を持たなきゃなんて話をするのですが、一人一人のそういう気持ちがあれば、行政のほうから、こうして、ああしてと言わなくて、市民サイドで気持ちが変わっていけば、それからもすごく、一番それが大切なのかなと思うのです。だから、もちろんそういうときは福祉だけではなくて、そういうところからも力を入れていきたいねと、職員ともいつも話しています。

今年は特に暑いから、やっぱり花をめぐるのが少ないかもしれないのですけれども、これからの秋口になれば、そういうのも散歩がてら見ているかな。それで、白井の駅の近くには公園もありますので、その辺もコースに入れて、少し散歩コースみたいなのを何かするというので、高齢者支援だけではなくて、子供とともにというのは、何か企画していきたいなとは思っています。

#### 【会長】

ありがとうございます。続いてお願いいたします。

#### 【委員】

市民の方が本当に主体になって、頑張っ続けていくという事業で、すばらしいなと思うのです。本当にSDGsではないですけれども、今後持続して、次にも伝えていくというような事業に、一つ一つの、小さな事業であっても、それを続けていくことでいろいろな形にどんどん変わっていく。緑が育つというだけではなく、実は、人と人とのつながりがとっても育っている事業なのではないかなと思うのです。だから、長く本当続けて

いることだけでも、とても評価できる事業がたくさんあると思っています。

その上で、今度は長期にわたってやる場合に、いろいろなつながりをもっとも必要になってくるものというのが出てくるかなと思うので、そういったところでは、なかなか担当されている方だけでは解決できない問題もかなり出てくるかなと思いますので、そういったところを今度広げていくということがとっても大事かなと思います。

もう一つは、環境学習もすばらしいと思うのですよね。そういったことに小さいうちに触れるということは大事なことですし、今後も続けていく意義がとってもあると思うのです。ただ、一過性になりやすいというところを、どのように、今度はそれを受けた子供たちが自分の取組の一つとしてやっていこうというふうに、継続に結びつけていけるものなのかどうかというところも大事な視点かなと思います。

そんなようなことで、この事業については、とても高く評価できるものではないかと思っています。

#### 【委員】

皆さんがおっしゃったことと、また重複してしまう部分もあるかと思いますが、白井の緑を保全するというので、いろいろな活動を、個別ではあるけれども、皆さんされているのが、すごくよく分かりました。ただ、それが高齢化に伴って継続できるのかというところがとても難しくなっているということで、活動されている方々が連携して協力できるような仕組みができれば、さらにこれがまた発展、継続できるのではないかなというふうなことを考えました。以上です。

#### 【会長】

私のほうからは、皆さんとかなり共通はしているのですが、一つは、やっぱり緑に触れる場や機会というものが、いろいろな形で広がっているということ。そして、それぞれ団体活動だったり、あるいは、個人単位でももちろんあるのですが、そうした環境意識というものが少しずつ広がってきているというのが、これまでの事業成果でもあるでしょうし、市民、地域のそうした意識の高まりがここ出てきているというのも間違いないところなのかなというふうに思います。また、そういうことをいろいろ体感できる場、学べる場というものがあるということも、これもほかの自治体と比べても、白井はかなり率先してやられているのではないかなというふうにも思います。

そういう意味では、非常にまちづくりとしての環境保全のベースの部分というのは、いろいろな形で展開されて、高く評価できるのではないかなというふうに思います。

そのことを踏まえた上で、もう一つ申し上げたいのは、例えば、この取組目標のところに、森や河川、田園など市街地の外側に広がる緑と、市街地内の緑地や樹木などの緑が、チェーンのようにつながり、緑が持つ、暮らしを豊かにする多様な可能性を生かす。このチェーンのようにつながるといえるのは、すごく大事な視点なのだと思いますけれども、これをどう



もっと深掘りしていくのかということがすごく大事なのですね。

例えば、流山なんかは、電車が通ったというのがありますけれども、どんどん宅地開発を進めて、その宅地の中に緑を積極的に植えるという。そうすることによって、二酸化炭素の吸収云々って問題もありますし、それによって、土地とか物件の資産価値を上げるというふうな戦略を取っている。非常にマーケティングを前面に押し出して、緑というものをブランド化して売りにするというふうな、そういう戦略を取っていると。これは非常に、流山の一つのやり方で、これで、そういうどんどん緑を植えていくということによって、緑のチェーンというものをつくろうとしているという政策をやっているのですよね。

というので、片や、もっと、例えば山武とかそっちのほうに行くと、緑そのものが持っているものをもっと積極的に生かしていく。例えば、そういう自然とともに生活するというのはどういうことなのかと、そういうことをもっといろいろな市民に体験してもらう。森を通じていろいろなイベントとか交流というものをやられているのですよね。市民活動も森を通じてやるだとか、あるいは、そんないろいろなお祭りというのも森に絡めていくとか。あそこサンプスギで有名ですけども、例えば、サンプスギというのも、今、溝腐病というのがどんどん広がっていて、要するに林業の後継者がほとんどいないのですよね。だから、どんどん今、木の管理ができなくて、どんどん腐る一方だと。じゃあ、何とかしなきゃいけないというので、また新たな動きが出てきているという。そういうふうに、既にある緑をどう守っていくのかという視点、あるいは、そこにどう関わっていけるのかという視点でいろいろな政策を取られるという。これも一つの視点なのです。

だから、そう考えたときに、白井って、緑というものをどういうふうに位置づけていくのかという辺りは、多分もっと深掘りできると思うのですよね。それが何なのかというのは分からない。だから、もっと調査研究して、いろいろ深掘りしていかないといけないと思うのですけれども、ここにうたわれていることは、非常にいいことだと思うのですね。でも、それをどういうふうに白井として深掘りして、その戦略を立てていくのかという辺りが今後の課題で、それによって、また環境学習の進化、発展というものも期待できるし、あるいは、緑というものを生かすとするならば、どういう意味で生かすのかという辺りも、多分もっと取組の広がりというのが出てくるのかなというふうにも思いますので、そういう根本的な方向性というものを、今後さらに深掘りしていくということが大事なのかなというのは、併せて申し上げておきたいと思います。

ですから、そういう既に取り組まれていることというのは、これからさらに新たなことをやるにしても、基礎の部分に間違いなくつながっていますから、そういう意味では、今ある取組というものを継続させていくということも非常に大事ですし、だから、そういう点は非常に高く評価できるのかなというふうには思います。

ということで、一通り御意見などをいただきましたけれども、総合評価としては7名中、

B評価が5名、C評価が2名となっておりますので、総合評価としてはB評価というふうな形が妥当かなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。今日は、四つ施策のうち三つは非常に悩ましい、意見が割れるような形だったのですけれども、この施策については、かなりB評価、皆さんのコメントを伺っていても、今の方向性をしっかり守っていただきたいというふうな声も非常に多かったと思いますので、B評価というふうな形でさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、残りの時間で一定の評価ができるということを前提とした上で、今後もっとこういうことをやっていったほうがいいのか、ここはこういう改善をしたほうがいいのかといったことを提言として盛り込みたいと思いますので。既に、このA4のペーパー、改善点ということで、3人の委員の方は既にお書きくださっていますけれども、このことも含めて御意見がありましたらお願いをしたいと思います。

既に一巡する中でもいろいろ御提言、提案的なものも頂戴していますけれども、そういう個々のいろいろな取組が出てきている。それをさらにもっと広げていく。もっと市民の日常生活の中で、環境とか環境保全というものも意識できるような、そういう場面、場や機会というものが増えていけば、より意識の高まりというものにつながっていくことも期待できるでしょうから、そういう場面というものをもっと増やしていくと同時に、委員の中にはいろいろな関係団体が連携できているとおっしゃっている方と、全然できていないとおっしゃっている方がいて、これはいろいろな見方があるのかなというふうに思いますけれども。

いずれにしても、横のつながりをつくっていくということも、これまた大事なところで、先ほど委員からも、まち協に絡めてというふうなこともありましたけれども、そういう点としての取組を、もっと面的なものにしていくということが、これからさらに問われていくのかな。そうすることによって、また新たにできることというのも増えていくはずで、それが何なのかということも含めて、いろいろやり取りできるような場というものが、今まで以上にこれから問われていくのかなというふうに思いますので。そういった意見についても、ぜひ提言の中で盛り込ませていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【委員】

今おっしゃっていただいたように、本当に白井のいっぱい資源が今そろってきて、それぞれの団体さんも頑張るようになってきて。御自分たちのやりがい、生きがいというか、それから、仲間づくりいうか、そういったところと、あと、そこら辺の目標はかなり達成しつつあるのだと思うのですね。今度は、その取組団体さん同士の仲間づくりも必要ですし、もっと言えば、御自分たちがつくったものというか、手がけたものをいろいろな方に見ていただきたいというような、第三者の方も意識したような取組を今後していく

というのも、とっても大事な事かなと思ひまして。そんなところを、PRの仕方もそうですし、勧誘の仕方もそうですし、案内もそうですし、あとはそういった自分たちのやったことを披露するタイミングとか、しろいまちのようなどとてもいいものも、資源もあって、そういったことを使いながらやっていくというのも、とても大事かなと思ひます。

#### 【会長】

まさに、多分いろいろな規模感ってあり得ますよね。いろいろな形で関わっている、保全に取り組んで貢献しているのだということを見せたいというふうな、そういうふうな部分というものをもっと膨らませていくという。そうすると、多分もっとまたいろいろな可能性につながるものがあり得るのですよね。ある町では、もうそういうものをどんどん見せていくことによって、緑に触れるということが、例えば、いかに癒しにつながるかなという。これ科学的に証明して、それを事業化しているような町だってあったりするのですよね。あるいは、市原のアート×ミックスのように、緑というものに、今度は芸術という視点を加えて、またいろいろな見せ方をしていく。そこでまたいろいろな市民も関わっていくなんていうふうなやり方もあったのです。これは非常にまた別な意味での高度な技だったりもしますけれども、表現をするというのは、多分いろいろなレベル感でできることかと思ひますので、そういう模索にもつながるような発信というのも、ぜひ伝えられたらというふうに思ひます。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【委員】

この町、緑があつていいねという声と、緑が伸びすぎていて困るねという声が、毎年聞かれる中、本当に道路まで飛び出している、隣の家にも伸びていつている。注意を個人的にはしにくいので、自治会として注意をするような回覧をしてほしいというような声もあります。

そういう中で、どう皆さん方の要望を調和していくのかということと、もう1点は、費用という面で、例えばどのくらい負担していったらいいのかなということも、ある程度見える化していく必要はあるのかなと思ひます。というのは、木はどんどん大きくなります。先日、あるお宅に行って、おばあちゃん、もう80過ぎのおばあちゃん、私が植えた木じゃないのです。この家買ったときからある木で、私がこれ切らないといけないのですが、どのくらいお金かかるのですかと言われたのです。でも、これは、あなたのお家の木が育ってしまったら、あなたが切ることをやらなくてはならないことで、御近所からも苦情が来ているのですよという話をしたら、分かりましたと言ってくれましたけれども。

そうすると、緑があればいいということではなくて、管理された緑があるといいねということなのかな。

もう一つは、管理されない緑もいいねという声もあるのですね。何で公園のこの木を切

ってしまったのよ。こんなことをしてもらおうようなことを言う自治会には入りたくないわなんていう声を聞いたりもします。この間、けやき台に行ったら、公園がこんなに切っちゃって寂しいなと思ったのです。感じ方はいろいろで。

今、言おうとしているのは、どのくらい市としては緑を維持するためにかかっているのかなというのを、これもちょっと見える化もしていてもいいのではないかなと思うのですね。なぜならば、公園の緑を切るのに物すごく費用はかかるのではないかな。街路樹を整備していくのにすごく費用がかかっているのではないかな。そういう中で、登録すると苗木自体をもらったりとか、そういうものを置き換えられるような費用なのか、緑があるだけでは大変で、それをもう少し抑えてもいいという地域の声があるのか、なかなかそういった意味では、地域の声と公園課なのか、道路課なのか、それぞれの声を聞きながらやっておられるだろうと思いますけれども、もう少し連携があってもいいのかななんていうふうに思いますので、その辺の費用のことも考えた緑の維持というものも、こういう政策の中には取り入れたらいいのではないのかなと思います。

あと、環境塾の場合、大変大きな影響力があるのではないかなと思います。だから、我々の地域でもそういう人も加わって、活動されている人たちの声もあって、大変すばらしいのではないかなと。そういうものを生かしていくことが、これからこういう政策をし続ける上で、大事ではないのかなというふうに思って、ぜひコミュニケーションを取れるような政策の中にも取り入れてほしいなということをつけ加えさせていただきます。ありがとうございます。

#### 【会長】

ありがとうございます。どういうふうに緑というものを管理しているのかという辺りの情報を可視化していくというところで、要するに、緑を守るために税金どれくらい使われているのだというふうな情報って、市民は知っているようで、実は知らないというところがあるのかどうか。いろいろな認識はあるとは思いますが、そういう情報というものもどんどん見せていくことによって、もっと自分たちでできることはあるのではないかなというふうな気づきとか、いざないに結びつけていくということもあるでしょうし、これは、例えば公園管理なんていうのも、例えば、100万円出して業者に全部やってもらうのと、もう半分にして、その公園を使う人たちでどんどん手を入れていこうというふうにして、コスト削減かつ我々の公園づくりみたいな、そういうふうに行っている町だっただくさんあるのですよね。だから、どういうところで、どういう人たちが、どういう力を発揮できるのかということも、実は情報としてもっと発信されていくと、自分はこういう部分だったら関わられるなというふうなことが見えてきたり、自分はできないけれども、じゃあちょっと寄附しようかななんていうふうな動きにつながっていったりとか、それはもういろいろな裾野の開き方というのはあると思いますので、ぜひそういう諸々の情報とい

うものも、ぜひ発信していただけたらといったようなことも併せて確認させていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ぜひこれだけは言っておきたいということは大丈夫でしょうか。

それでは、いろいろ御意見頂戴しましたけれども、それらについては改めて取りまとめをさせていただいた上で、次回の審議会、最後の審議会になりますけれども、そこで集約したものを改めて皆さんに御覧いただき、最後修正を加えて、まとまったものを市長のほうに提出するというふうな流れに今後なりますので、一応そういった流れでいくということ把握しておいていただければと思います。

この後、また改めて評価を変えたいとか、あるいは、コメントを追加したいといったようなこともあるかもしれませんが、その後、また事務局のほうにそれらの声を出すこともできますので、もし何かありましたら、そういった対応もしていただければと思います。

一応、今日予定されていたことについては以上となりますけれども、委員の皆さんから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議題は以上となりますが、二つ目のその他ということで、事務局から何かあればお願いをいたします。

#### 【事務局】

先ほど会長からもありましたとおり、本日の審議を踏まえて、個人の評価を変えられる場合、外部評価シートの最終のものを御提出いただければと思います。

ただ、今回を踏まえても、特にもう修正ないということであれば、その旨を後日で結構ですので、事務局まで御連絡いただければと思います。

また、次回の日程ですが、10月20日午後1時30分からの予定です。先ほど申したとおり、外部評価、報告書について、案について御議論いただくこと。また、来年度の今回の外部評価を踏まえて、来年度の外部評価について、こちらで案を示しまして、御意見をいただければと考えております。

#### 【会長】

次回の審議会は10月20日金曜日の午後1時30分からということになっておりますので、御確認をお願いいたします。

そのときに外部評価の報告書ということで、最終的な取りまとめを行いますので、また御協力をよろしくをお願いいたします。

それでは、今日予定されていた議題は以上となります。これをもって第3回の白井市総合計画審議会を閉じさせていただきたいと思います。

お疲れさまでした。